

## Ⅱ. キャンパスライフについて

### 1. 入学動機等

#### (1) 本学入学までの経過

現役入学者が 72.6 %、前回調査の 80.2 %から減少した。  
現役入学者は男子 67.1 %、女子が 78.7 %  
学部別では教育学部 (79.7 %) 法学部 (79.5 %) が多く、  
医学部 (55.7 %) は少ない

図 56 は本学入学までの経過年数等が示されています。

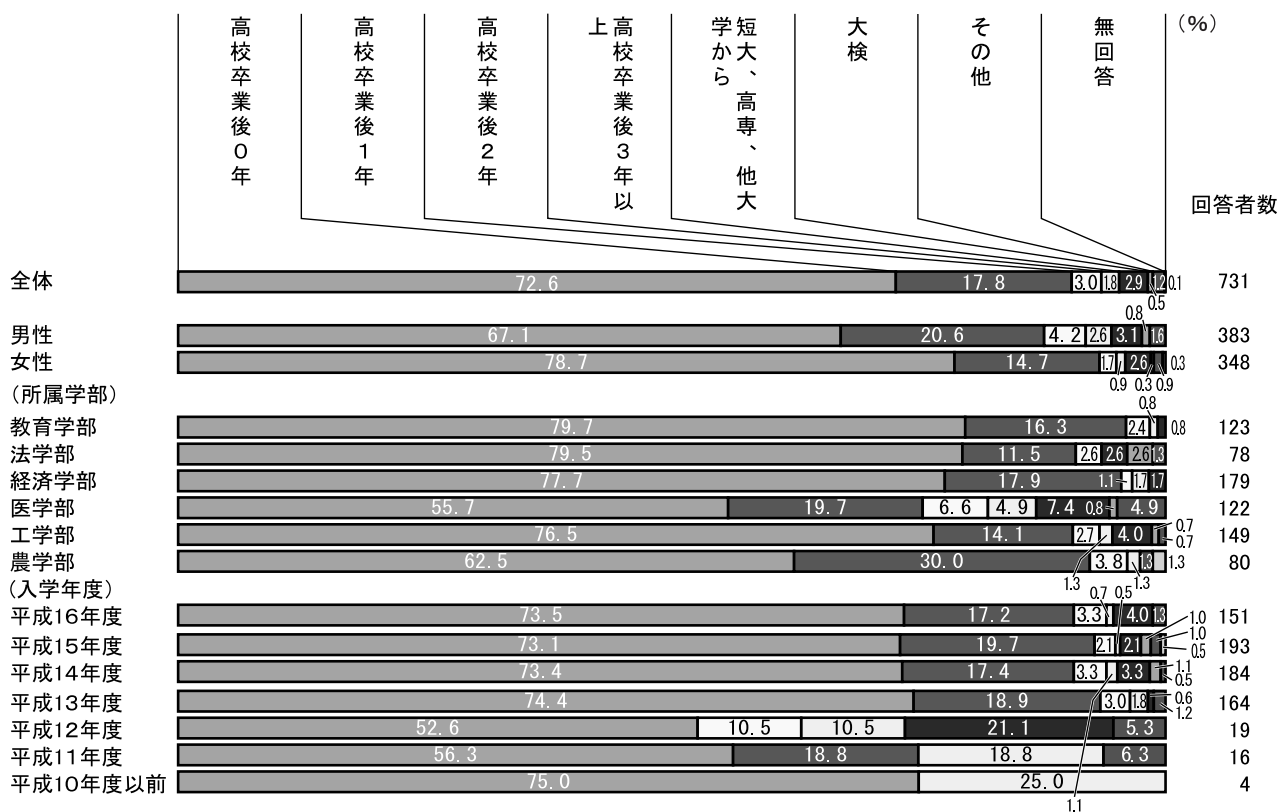
「高校卒業後 0 年」、いわゆる現役入学者が全体では 72.6 %と最も多くなっています。ついで「高校卒業後 1 年」17.8 %、「高校卒業後 2 年」3.0 %、「高校卒業後 3 年以上」1.8 %となっています。その他「短大、高専、他大学から」が 2.9 %、「大検」が 0.5 %です。

前回までの調査結果と比較すると、現役入学者の割合は、平成 10 年度 (第 6 回調査) 76.0 %、平成 12 年度 (第 7 回調査) 78.1 %、平成 14 年度 (第 8 回調査) 80.2 %と増加傾向にありましたが、これに比べると、本年度は相当程度減少したと言えます。その原因は不明です。しかし、一方で 18 歳人口の減少が続くことにより大学の門戸が広がっている反面、不況の進行によってすこしでも学費の安い地元国立大学への進学指向が強くなっているというような面も考えられないではないかもしれません。

男女比較では、男子の現役入学者が 67.1 %であるのに対して、女子は 78.7 %となっており、これまでと同様に、女子の現役入学率の方が高いという傾向が続いています。

学部別の現役入学率は、これまでも調査年度により変化が見られました。今回は、教育学部 (79.7 %) 法学部 (79.5 %) に現役入学者が多く、従来の調査の際には存在していなかった医学部 (55.7 %) の現役入学者が少ないという結果が出ています。

〈図 56〉 問 16 あなたの場合、本学入学までの経過はどうでしたか。



(2) 本学入学は第1希望か。

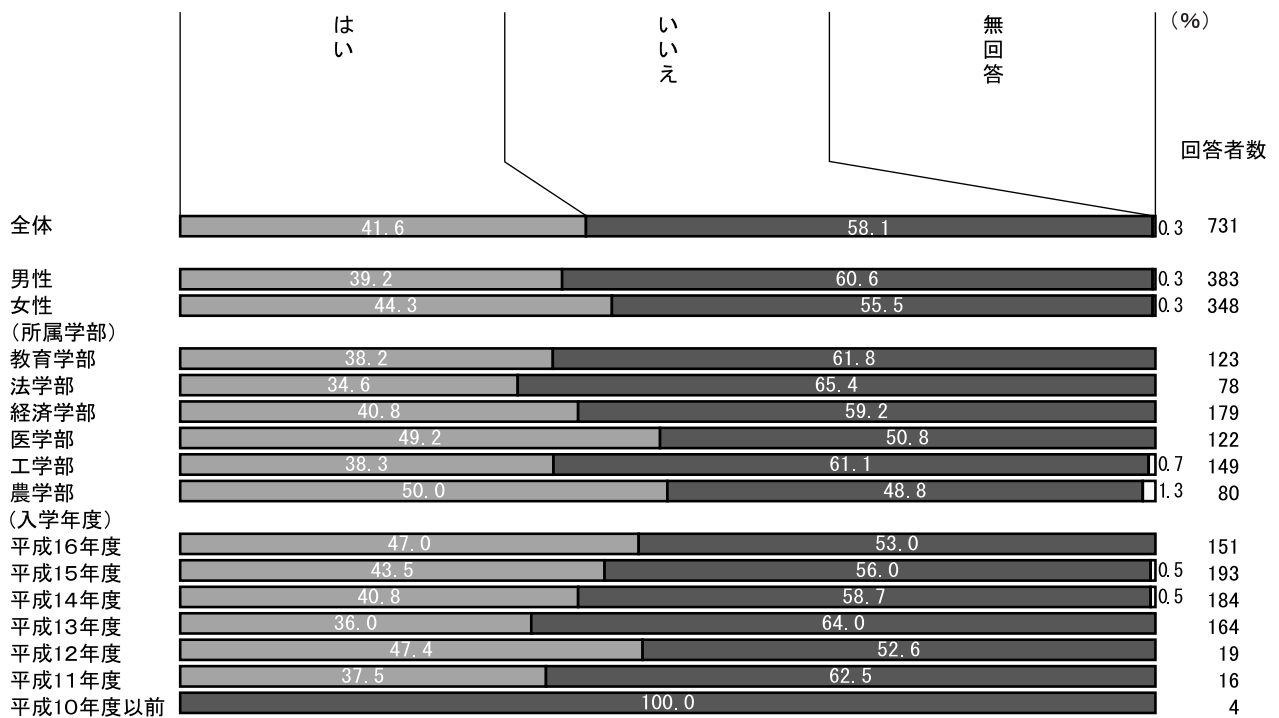
第1希望での入学が37.8%から41.6%へ増加  
 学部別では、農学部がもっとも高く(50.0%)、ついで医学部(49.2%)が高い。  
 低いのは法学部(34.6%)で、前回から微減した。

第1希望で本学に入学した学生は41.6%となっています。

これまでの調査では、第1回調査(昭和61年度)37.9%、第2回調査(平成元年度)33.4%、第3回調査(平成4年度)25.0%、第4回調査(平成6年度)32.4%、(第5回調査(平成8年度)は対象外)、第6回調査(平成10年度)32.9%、第7回調査(平成12年度)35.5%、第8回調査(平成14年度)37.8%となっていました。これに今回調査の41.6%という数字を位置づけてみると、第3回調査以降、本学を第1希望として入学してくる学生の割合が増加傾向にあることを明確に読み取ることが出来ます。平成5年度以降、入学試験が分離分割方式に移行した結果、前期日程の合格者に他の国立大学を不合格となったものが居なくなったことなどがその要因として考えられます。

学部別では、前回調査対象となっていない医学部を除いて、農学部の第1希望入学者の比率が前回の38.5%から50.0%に増加しているのに対して、工学部は、前回の46.4%から38.3%へ減少しています。工学部については、新生工学部発足から6年を経過し、当初のインパクトがやや薄れてきたことも影響しているのではないかと思います。教育学部(33.0%→38.2%)経済学部(34.8%→40.8%)も増加したが、法学部(35.1%→34.6%)とほぼ横ばいです。

〈図57〉 問17 本学への入学は第1希望でしたか。



(3) 本学志望の動機

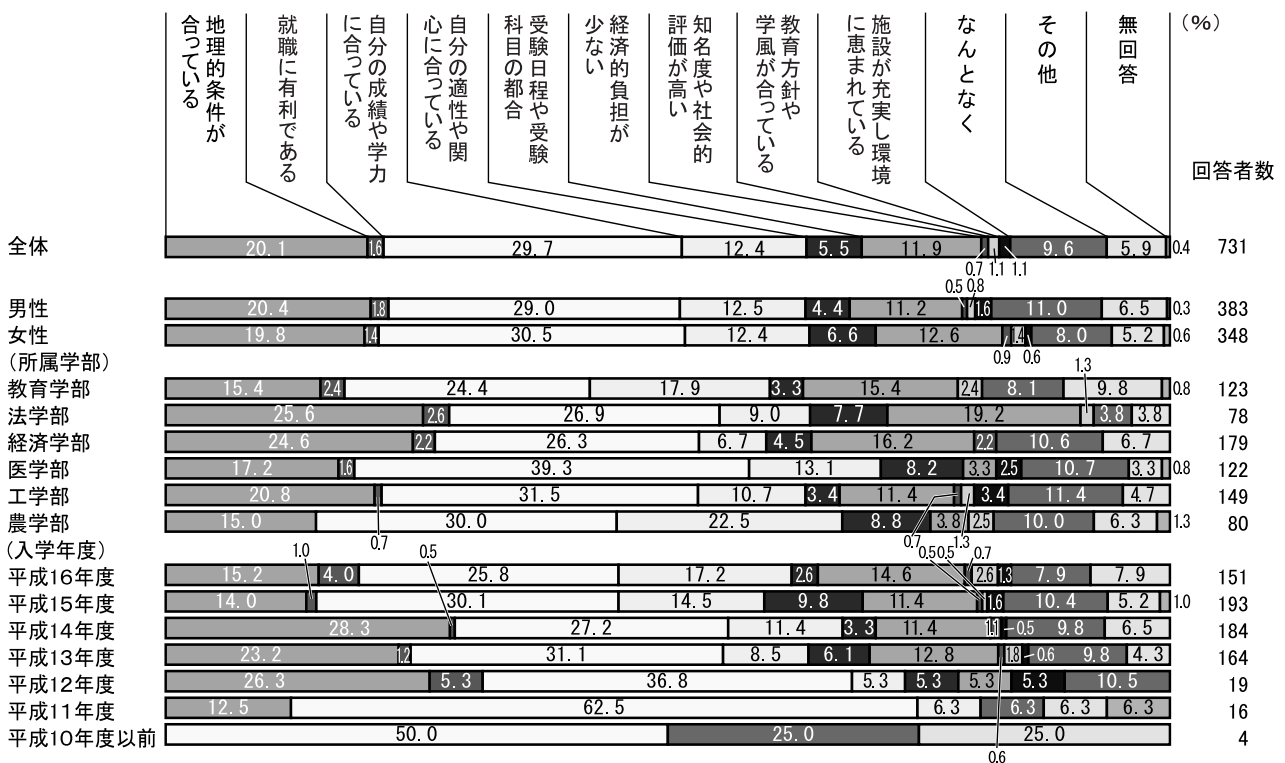
志望動機の第1位は「自分の成績や学力に合っている」  
第2位は「地理的条件」

図 58 は本学志望の動機について調査したものです。志望動機の高い順に、①「自分の成績や学力に合っている」29.7%、②「地理的条件があつている」20.1%、③「自分の適性や関心にあつている」12.4%、④「経済的負担が少ない」11.9%となっています。前回調査と比較すると、③④の順位が入れ替わっていますが、①②は同一で、基本的な変化はないと言えるでしょう。

いずれの学部においても、「自分の成績や学力に合っている」という動機が第1位となっている点で、受験生が全体として偏差値的な観点で進学先を判断している傾向が見られます。とくに医学部では、「自分の成績や学力に合っている」が39.3%と他学部と比較してかなり高いのに対して、「経済的負担が少ない」は3.3%と逆に低くなっているのが特徴的です。しかし、「地理的条件があつている」という動機は、学部によってばらつきがあり、前回調査と同様に、法学部・経済学部でやや高い傾向が見られます。男女の比較では有意な違いは見られません。

「自分の適性や関心にあつている」との動機が12.4%と第3位を占めているものの、全体としては、「教育方針や学風」1.1%、「施設が充実し環境に恵まれている」1.1%さらには「なんとなく」という動機も9.6%あり、大学の教育内容に対する受験生の関心が高いとは言えません。また「就職に有利である」ことを挙げたものも1.6%にとどまっています。

〈図 58〉 問 18 あなたが本学を志望した動機を次のうちから一つ選んで教えてください。





(4) 本学志望に当たって誰の意見を重視したか。

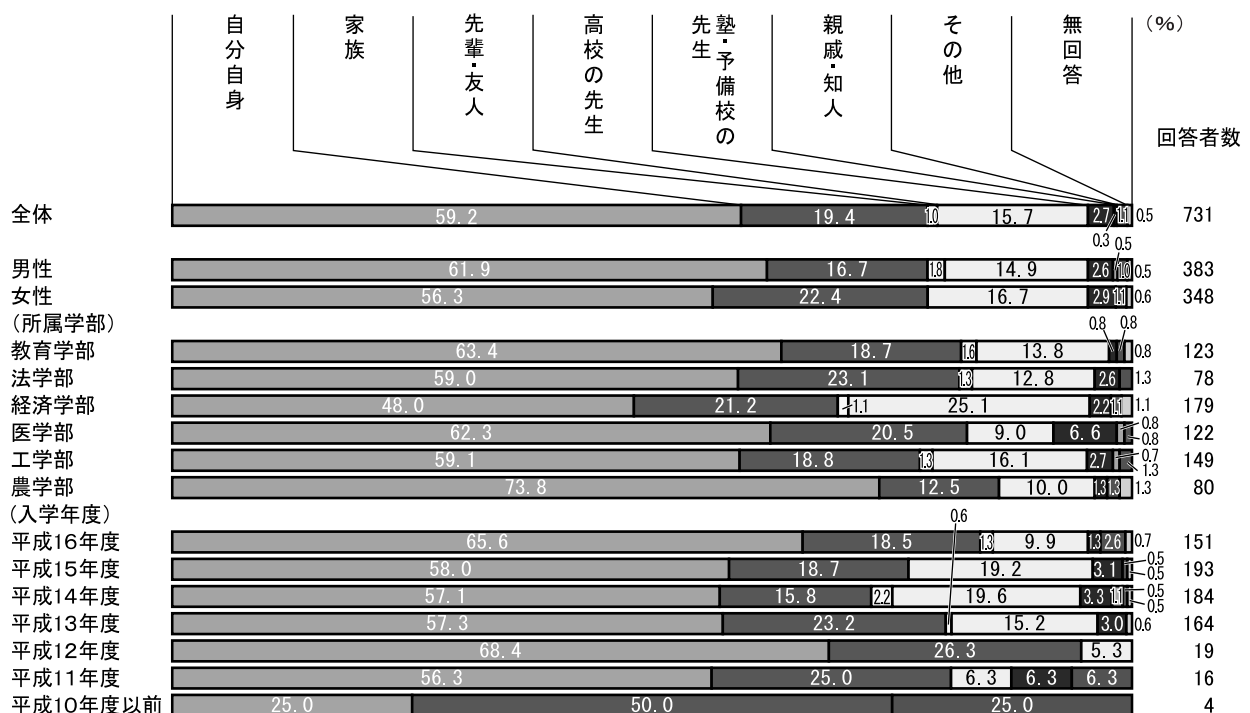
「自分自身の判断」が 59.2 %  
 「家族」の意見については、男子で微増、女子で微減  
 学部間の違いもやや大きい

本学に入学した人たちは、大学を志望するに当たって誰の意見を重視したのでしょうか。図 59 によれば、「自分自身」が最も多く 59.2 %、ついで「家族」19.4 %、「高校の先生」15.7 %、さらに「塾・予備校の先生」2.7 %となっており、おそらく、家族や高校の先生の意見を考慮しつつ、最終的には自分で決定しているというような実態が窺えます。すでに見たように、本学の場合、現役入学者が 7 割を超えていることから「高校の先生」が進路指導などを通じて一定の影響力を有していることは容易に推測できます。

男女の違いでは、男性よりも女性の方が、「家族」（男性：16.7 %、女性：22.4 %）「高校の先生」（男性：14.9 %、女性：16.7 %）の意見を考慮した比率は高い傾向が見られます。しかし、前回調査との比較では、女性の場合、両者の比率は低下しています（家族：24.7 %→22.4 %、高校の先生：17.8 %→16.7 %）が、逆に男性では増加の傾向が見られます（家族：14.6 %→16.7 %、高校の先生：13.4 %→14.9 %）。

学部別では、農学部で「自分自身」の比率が高く（73.8 %）、ついで教育学部（63.4 %）医学部（62.3 %）工学部（59.1 %）法学部（59.0 %）となっており、逆に経済学部は「自分自身」の比率が 48.0 %と低く、「高校の先生」の比率が 25.1 %と高くなっているのが特徴的です。

〈図 59〉 問 19 あなたは本学を志望するにあたって、誰の意見を最も重視しましたか。次のうちから 1 つ選んで教えてください。



## 2. 学業

### (1) 学部・学科への満足度

入学した学部・学科に満足している学生は 41.7 % 医学部・教育学部・法学部で満足度は高い 「不満」「転学部・転学科」「転学」「退学」で 21.1 %
--

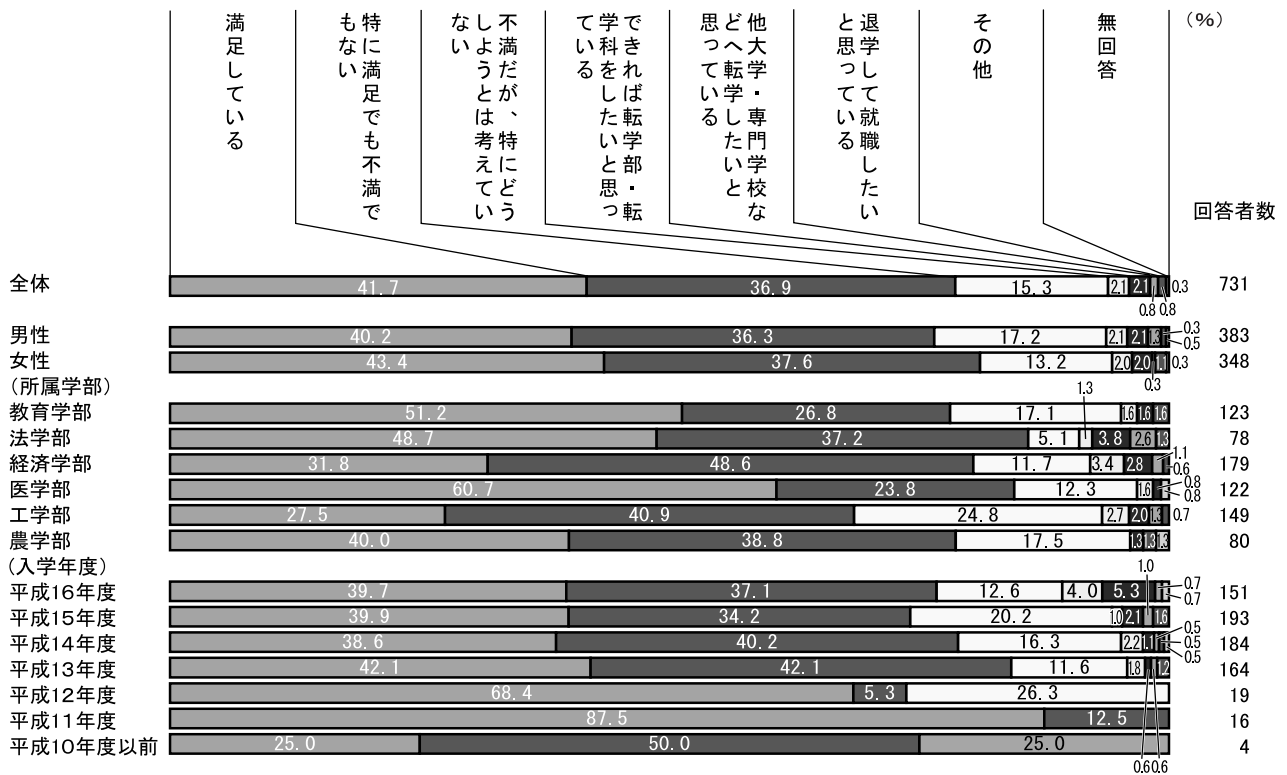
図 60 は、入学した学部・学科への満足度を調査したものです。「満足している」と答えた学生は 41.7 %で、前回調査の 31.0 %から大きく増加しています。しかし、「特に満足でも不満でもない」という学生が 36.9 %、「不満だが特にどうしようとは考えていない」という学生も 15.3 %おり、ともに数字的には前回調査と比べてやや減少しているものの、なお半分以上の学生が入学した学部・学科に対して満足していない結果となりました。

「満足している」と解答した学生の割合は、第 1 回調査（昭和 61 年度）34.0 %、第 2 回調査（平成元年度）32.0 %、第 3 回調査（平成 4 年度）38.0 %、第 4 回調査（平成 6 年度）34.6 %、第 5 回調査（対象外）、第 6 回調査（平成 10 年度）29.1 %、第 7 回調査（平成 12 年度）30.7 %、第 8 回調査（平成 14 年度）31.0 %、と第 3 回調査以降、低下傾向があったのに対して、大きく回復しています。

有意な男女差は認められませんが、やや女性の満足度が高いという傾向が見られます。

学部別では、とくに医学部において学生の満足度が高くなっています（60.7 %）。これに対して、経済学部と工学部では、「満足している」（経：31.8 %、工：27.5 %）と答えた学生よりも、「満足でも不満でもない」（経：48.6 %、工：40.9 %）と答えた学生が多いという結果が出ています。一方「不満」「転学部・転学科」「転学」「退学」と答えた学生の比率は、法学部が最も少なく 12.8 %であったのに対して、工学部では 30.8 %に上っています。

〈図 60〉 問 20 あなたは入学した学部、学科などに満足していますか。



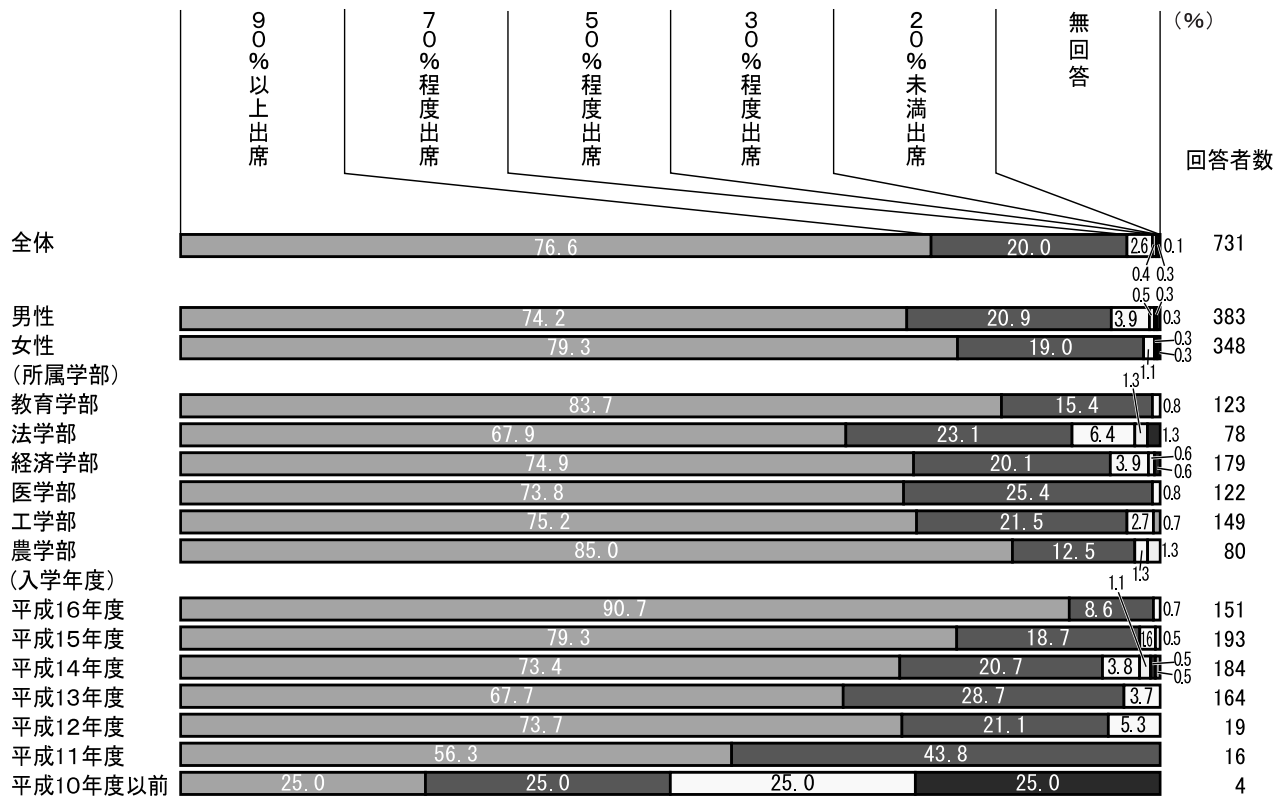
(2) 授業への出席状況

「90 %以上出席」が76.6 %、前回より増加  
 「90 %以上出席」の比率は、農学部 (85.0 %)、教育学部 (83.7 %)、  
 工学部 (75.2 %)、経済学部 (74.9 %)、医学部 (73.8 %)、法学部 (67.9 %)

図 61 は、授業への出席状況を調査したものです。「90 %以上出席」の比率は76.6 %で、前回調査の66.3 %から10 %余り増加しています。「70 %程度出席」の20.0 %と合わせると回答した学生全体の96.6 %となり、学生全体の授業への出席状況はおおむね良好と判断できるでしょう。また「50 %程度出席」2.6 %、「30 %程度出席」0.4 %、「20 %程度出席」0.3 %を合わせても3.3 %にすぎず、前回調査の時に比率が、それぞれ5.9 %、2.2 %、1.4 %で合わせて9.5 %であったことと比較しても、約3分の1に減少しています。

男女の比較では、女性の方が「90 %以上出席」の比率は高い (男性 : 74.2 %、女性 : 79.3 %)。学部別では、農学部 (85.0 %)、教育学部 (83.7 %)、で「90 %以上出席」の比率が高く、法学部 (67.9 %) では低くなっています。しかし、全学部において状況の改善が見られるだけでなく、法学部についても、前回調査での数字 (「90 %以上出席」が58.4 %) から大幅な改善が見られます。なお、学部によりまた科目により授業形式に違いがあり、形式的に出席率の差を比較しえない点にも留意が必要です。

〈図 61〉 問 21 あなたの授業への出席状況はどうか。



(3) 興味のある全学共通科目

全学共通科目に興味を持ってないと答えた学生が 46.3 %  
 全般的に興味を持ると答えた学生は 51.1 %

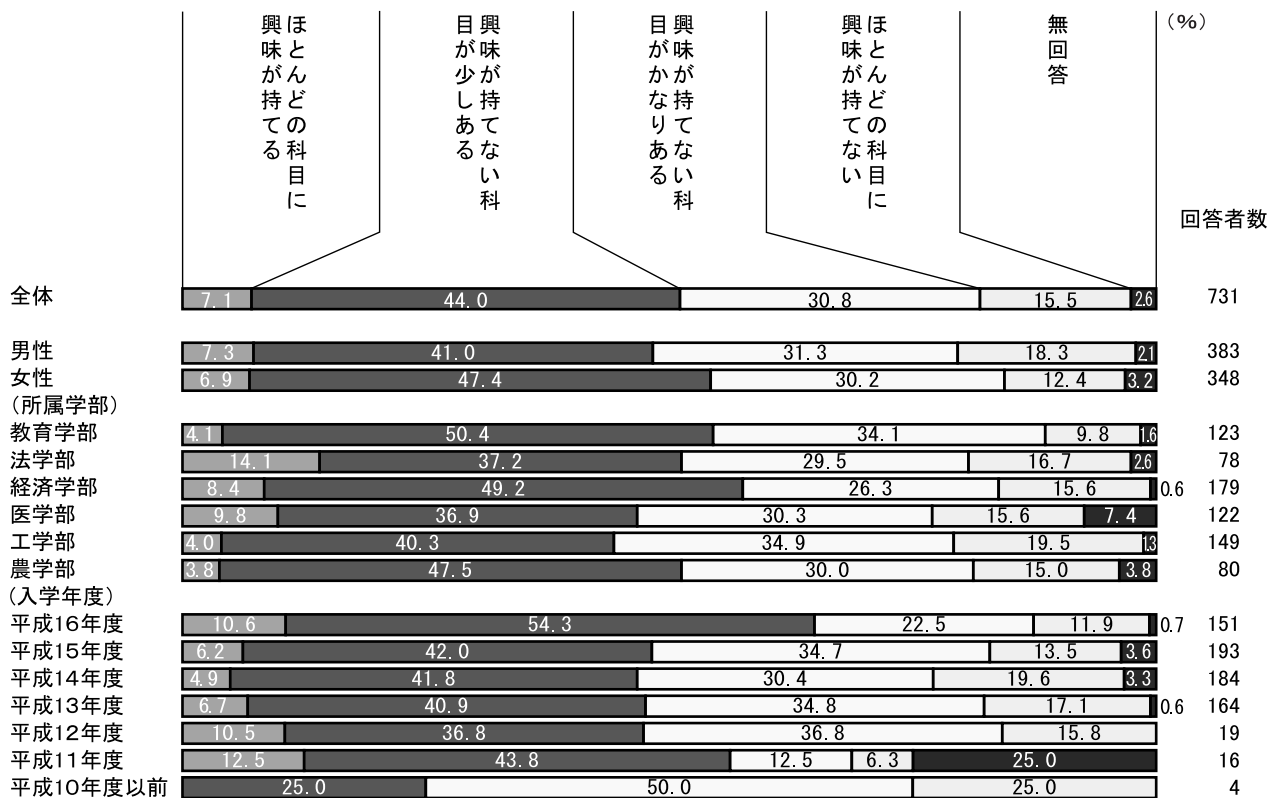
図 62 は、学生の全学共通科目に対する興味や関心を調査したものです。

結果は、「ほとんどの科目に興味を持てる」7.1 %、「興味を持ってない科目が少しある」44.0 %、「興味を持ってない科目がかなりある」30.8 %、「ほとんどの科目に興味を持ってない」15.5 %となっており、全般的に興味を持っている学生と興味を持ってない学生とは半々に分かれているような状況となっています。また前回調査では、それぞれ 6.7 %、44.3 %、33.3 %、14.8 %となっており、基本的な変化はありません。

男女比較では、やや女性の方が興味を持って取り組んでいる層が多い。学部別では、前回調査の際、法学部では「興味を持ってない科目が少しある」が 62.3 %おり、他学部に比して著しい違いを見せていましたが、今回は 37.2 %に低下して、他学部と大きな違いはなくなっています。これは、今回大きく低下したと言うよりも、前回調査の際に何らかの特殊な要因が作用した可能性もあるのではないかと考えられます。

〈図 62〉 問 22 現在、興味を持っている授業科目はどの程度ありますか。

①全学共通科目



(4) 興味のある学部開設科目（専門科目）

学部開設科目について興味を持っている学生は76.3%で、  
前回調査（67.1%）に比べてかなり増加しています。

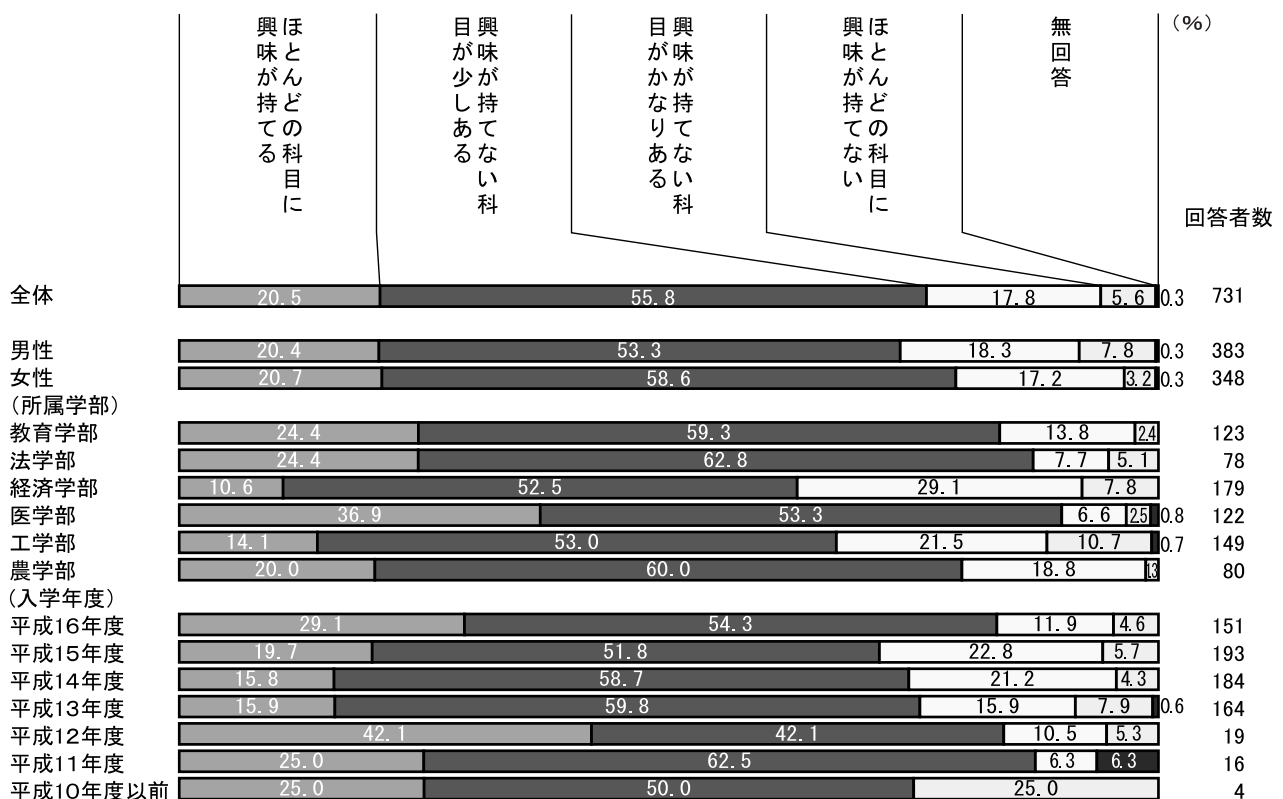
図63は、学部開設科目に対する学生の興味について調査した結果です。①「ほとんどの科目に興味がある」20.5%、②「興味がない科目が少しある」55.8%、③「興味がない科目がかなりある」17.8%、④「ほとんどの科目に興味がない」5.6%となっており、全般的に興味を持って取り組んでいる学生の比率は、前回調査に比較して大きく増加しています（①②の合計では67.1%→76.3%）。

同様に①②の合計で見た場合、学部別では、医学部（90.2%）が最も高い率を示しており、ついで法学部（87.2%）、教育学部（83.7%）、農学部（80.0%）となっており、さらに工学部（67.1%）、経済学部（63.1%）と続いています。しかし工学部・経済学部とも前回調査との比較では、大幅な改善が見られます（工：56.4%→67.1%、経：55.3%→63.1%）。

また③④の合計で見た場合、学部別では、医学部（9.1%）が最も低い率を示しており、ついで法学部（12.8%）、教育学部（16.2%）、農学部（20.1%）となっており、さらに工学部（32.2%）、経済学部（36.9%）と続いています。しかし、工学部・経済学部とも前回調査との比較では、大幅な改善が見られます（工：42.9%→32.2%、経：44.8%→36.9%）。

〈図63〉 問22 現在、興味を持っている授業科目はどの程度ありますか。

②学部開設科目



(5) 授業以外での勉強時間

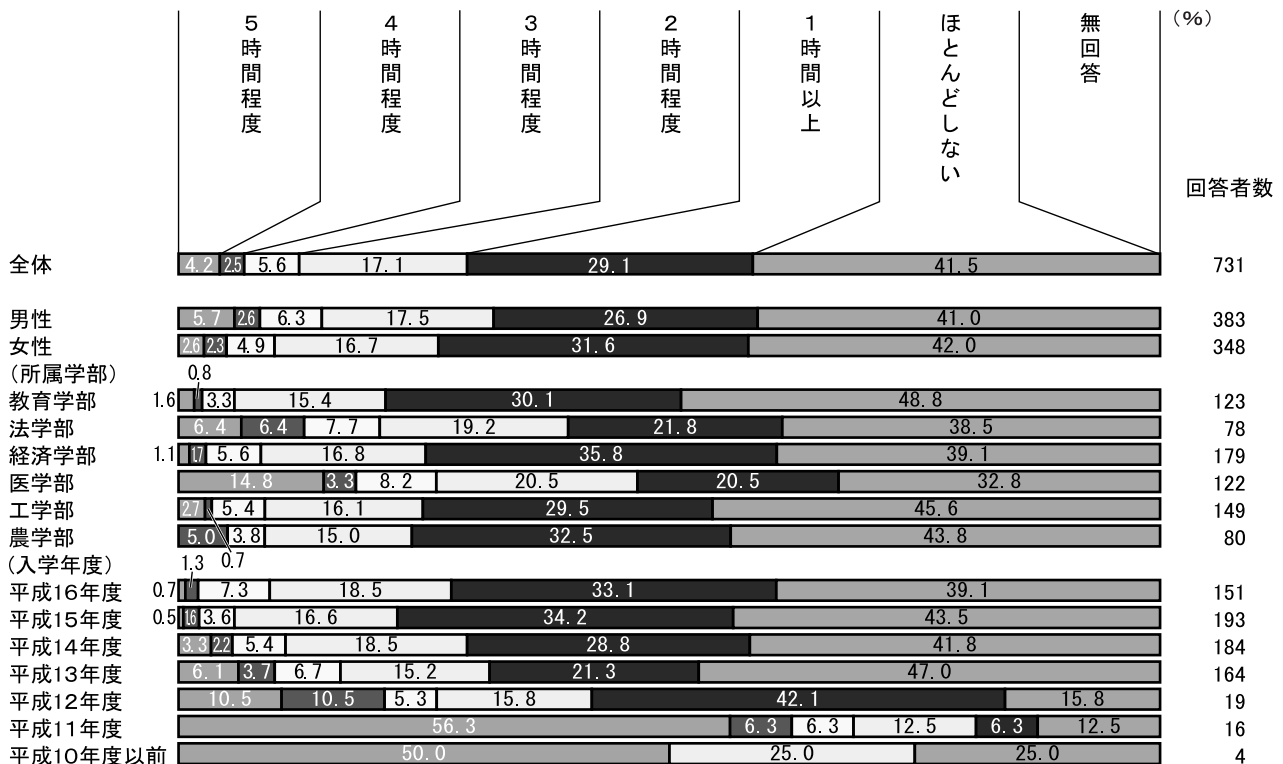
大学の授業以外では勉強を「ほとんどしない」学生が41.5%います。

図64は、大学での授業以外に学生たちが1日平均どの程度の時間を勉強に充てているかを調査したものです。「大学の授業以外」という表現は、授業のための予習や復習を含むのかどうかなど、やや曖昧ですが、学生は「教室での授業以外」と理解しているのではないかと思います。

授業以外では勉強を「ほとんどしていない」と答えた学生が41.5%に上っています。しかし、この割合は、第1回調査（昭和61年度）35.3%、第2回調査（平成元年度）46.9%、第3回調査（平成4年度）44.1%、第4回調査（平成6年度）45.6%、第5回調査（対象外）、第6回調査（平成10年度）52.5%、第7回調査（平成12年度）49.4%、第8回調査（平成14年度）47.0%と比べると、第1回調査以外では最も低い数字となっています。

学部別では、「ほとんどしない」学生は、医学部がもっとも低く32.8%で、教育学部が48.8%と最も高くなっています。しかし、「ほとんどしない」学生と「1時間程度」しか勉強しない学生を合わせた比率では、医学部（53.3%）、法学部（60.3%）、経済学部（74.9%）、工学部（75.1%）、農学部（76.3%）、教育学部（78.9%）となっており、全般的に学生の勉強離れが数字に表れていると言えます。また学年別で見ると、1年生で「ほとんどしない」学生の比率がやや低いものの、2年生以降では、あまり差が見られない結果となっています。

〈図64〉 問23 大学の授業以外に、あなたは1日平均何時間ぐらい勉強していますか。

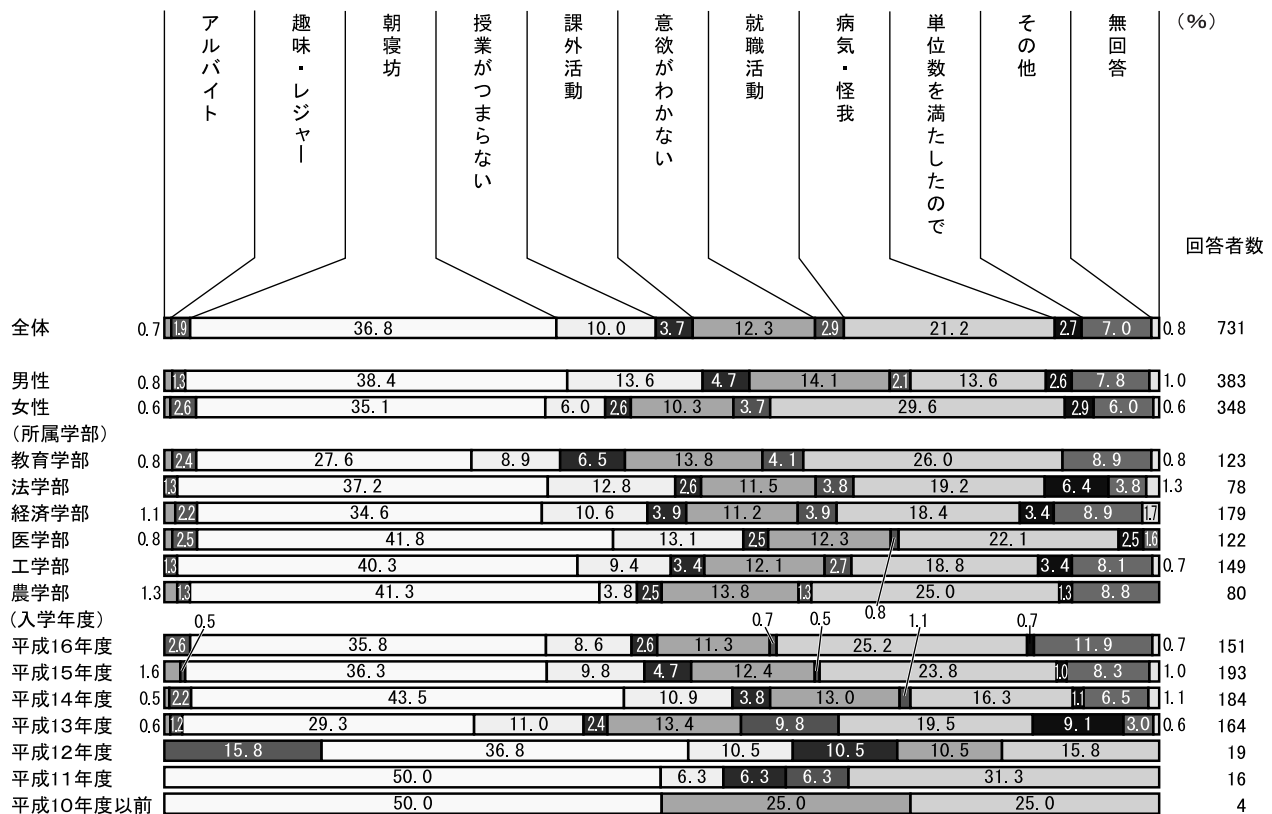


(6) 授業を欠席する理由

授業を欠席する理由の第1位は「朝寝坊」の36.8%  
 「意欲が湧かない」12.3%、「授業がつまらない」10.0%

図 65 は、学生たちが授業を欠席する際の理由を調査したものです。最も多い理由は「朝寝坊」の36.8%で、これは前回調査よりは減少していますが、傾向は変化していません（第7回調査34.8%、第8回調査38.9%）。ただ、「意欲が湧かない」「授業がつまらない」という学生は、それぞれ第7回調査が19.5%と15.4%、第8回調査が17.5%と11.4%であったのに対して、今回は12.3%と10.0%であり、やや減少しています。その結果、欠席理由の第2位は、「病気・怪我」となっています。

〈図 65〉 問 24 授業を欠席する主な理由を次のうちから一つ選んで教えてください。





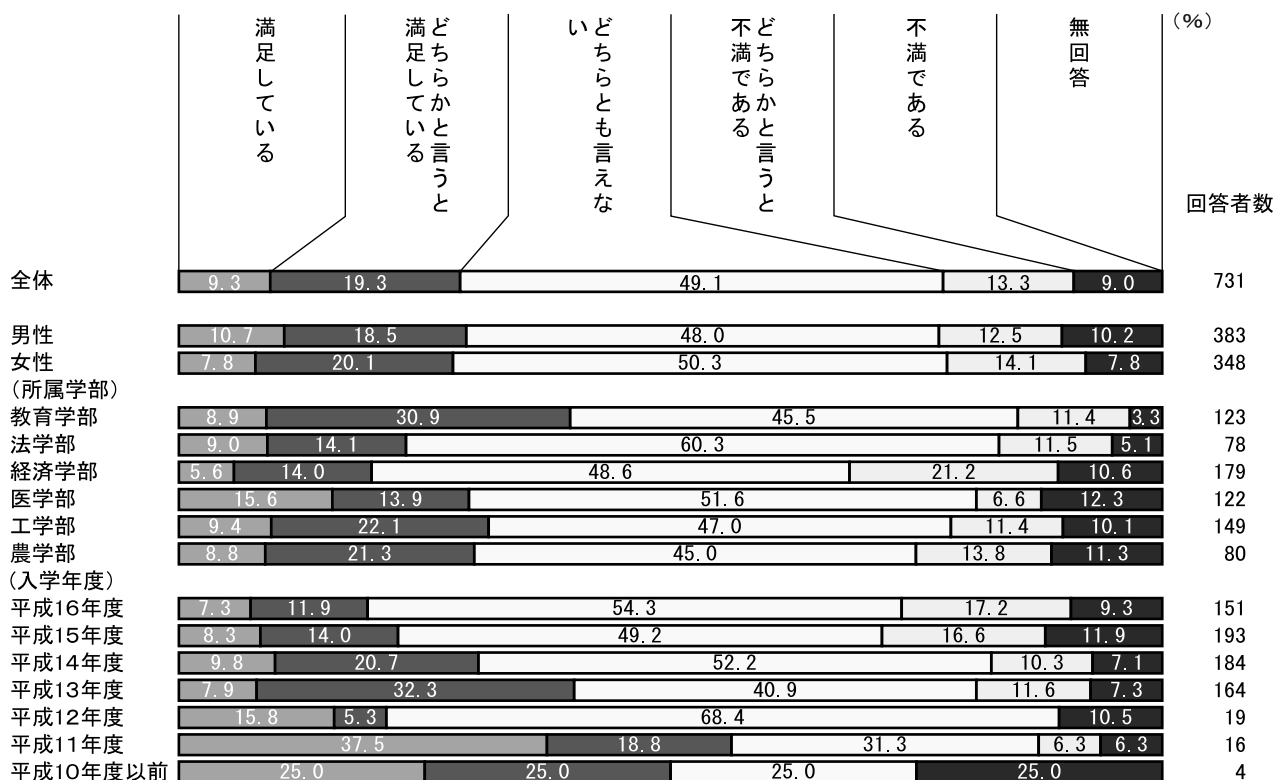
(7) 教員との交流

「どちらかという不満」「不満」を合わせると 22.3 %  
高学年で満足度上昇

図 66 は、教員との交流に対する学生の満足度を調査したものです。今回の調査では、①「満足している」9.3%、②「どちらかと言えば満足」19.3%、③「どちらとも言えない」49.1%、④「どちらかと言うと不満」13.3%、⑤「不満」9.0%、という結果となっています。第7回調査では、①8.8%、②15.8%、③54.9%、④11.9%、⑤8.6%であり、第8回調査では、①9.4%、②11.4%、③54.6%、④12.5%、⑤12.1%でした。これらのデータと比較すると、①「満足している」にはあまり変化がありませんが、②「どちらかと言えば満足」が増加し(11.4%→19.3%)、③「どちらとも言えない」が減少しており(54.9%→49.1%)、④⑤にそれほど大きな変化もないことから、やや状況は改善したといえます。しかし、相変わらず「どちらとも言えない」とする層が約50%も存在し、不満のある層と合わせると70%をこえているのは対応を考えるべき課題であるといえるでしょう。

学部別に見ると、教育学部の満足度が高く(①②を合わせて39.8%)、経済学部が低い(19.6%)。しかし、学部による授業形態の違いや教員と学生との人数比率の違いもあり、単純な比較は難しい。高学年で満足度が上昇する傾向にあるのは、卒業研究などで教員と個人的に接する機会が増えるなどの要素が作用しているのではないかと思います。

〈図 66〉 問 25 あなたは本学の教員との交流に満足していますか。



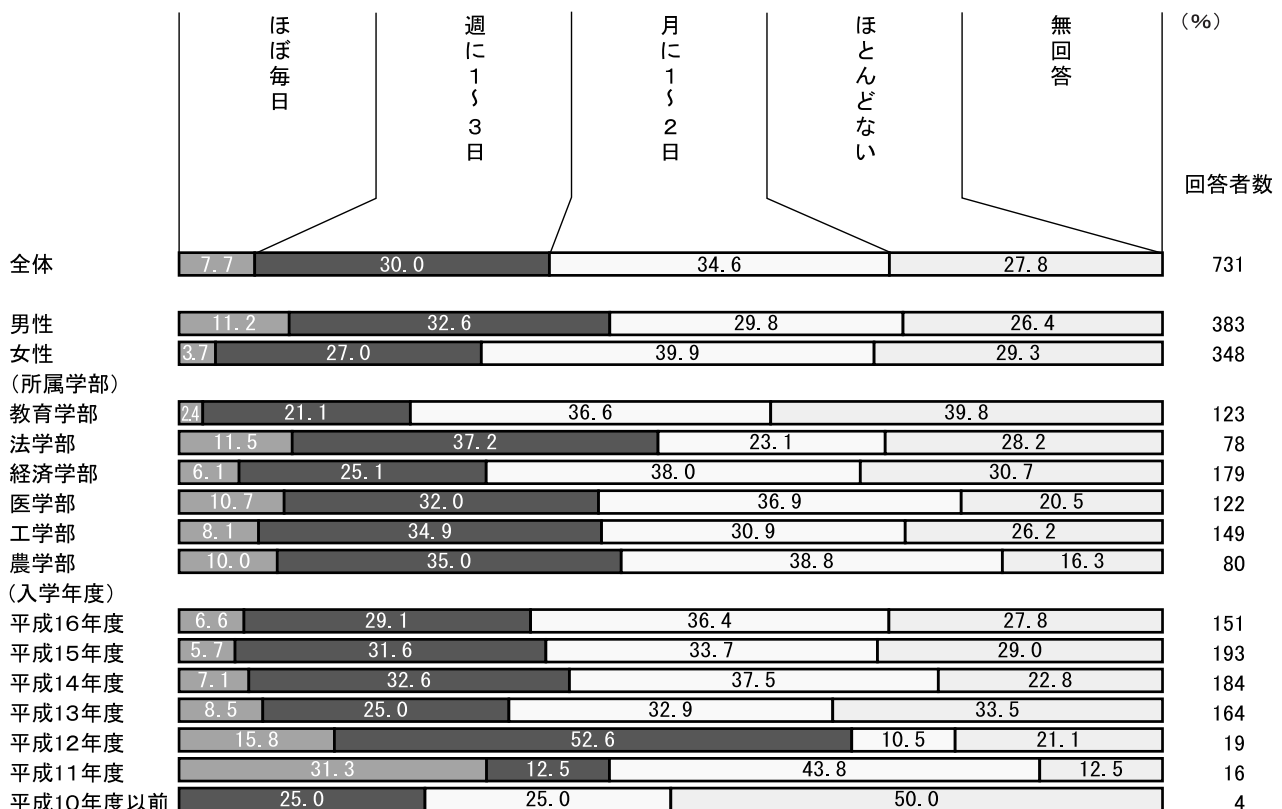
(8) 図書館の利用

「ほとんど利用しない」学生が27.8%で、やや減少。  
 法学部・農学部・医学部・工学部の利用率が高い。

図 67 は、学生の図書館利用状況を調査したものです。図書館を「ほとんど利用しない」学生は27.8%で、前回調査の30.3%よりもやや減少していますが、その前の第7回調査では27.0%であったことからすると、本質的には変化がないと見るべきでしょう。「ほぼ毎日」利用する学生が7.7%、「週に1～3日」利用する学生が30.0%、「月に1～2日」利用する学生が34.6%でこれらもほとんど変化がありません。

男女比較では、男性の方が図書館を頻繁に利用している比率がやや高くなっているようです。学部別では、①「ほぼ毎日」と②「週に1～3日」を合わせると、法学部が最も高く48.7%（第8回44.2%、第7回47.6%）、ついで農学部45.0%（34.0%、39.1%）、工学部43.0%（37.8%、44.1%）、医学部42.7%、経済学部31.2%（35.3%、34.2%）、教育学部23.5%（25.2%、28.4%）となっており、法学部・農学部・工学部ではやや上昇傾向にあります。また学年別による大きな違いは見られません。

〈図 67〉 問 26 図書館をどの程度利用していますか。



(9) 図書館の利用目的

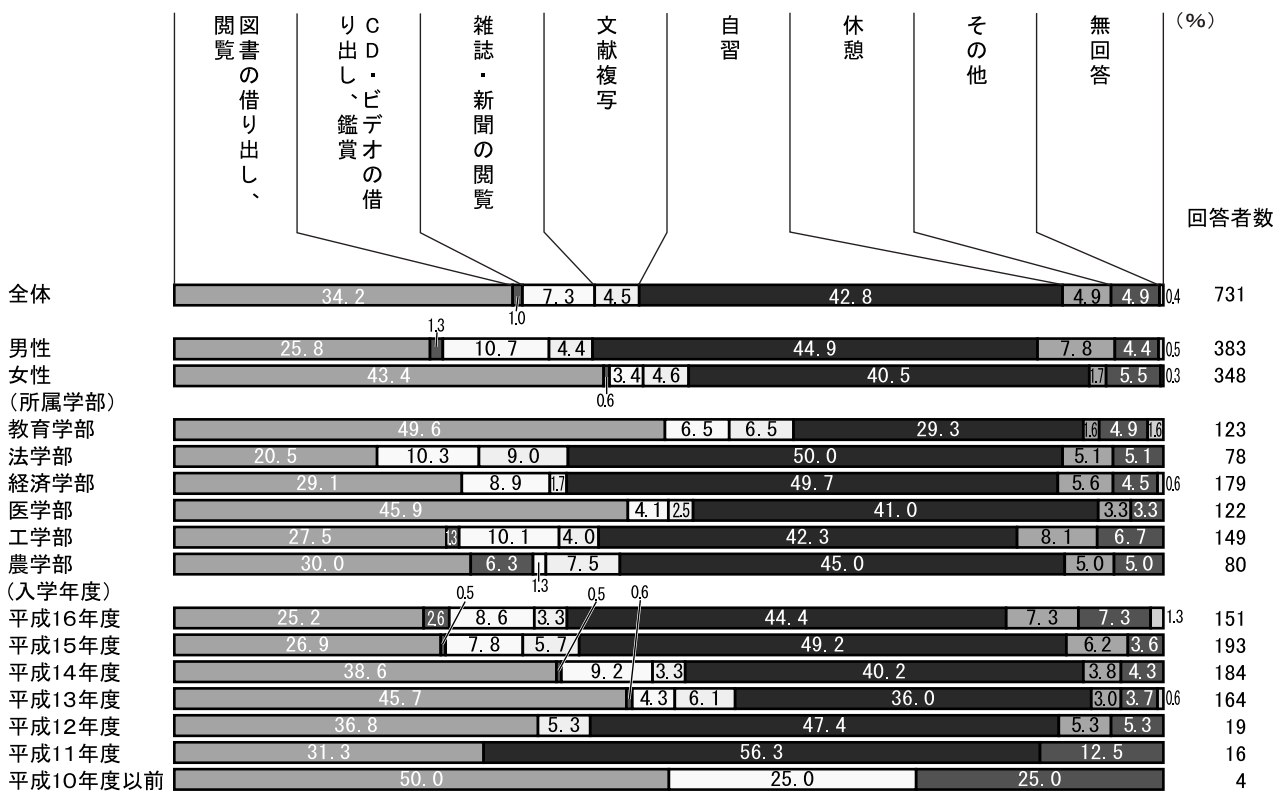
「自習」のための利用が第1位で、42.8 %  
 「図書の借り出し、閲覧」は第2位で、34.2 %

図 68 は、学生による図書館利用の目的を調査したものです。これによると、①「自習」のための利用が最も多く 42.8 %、ついで②「図書の借り出し、閲覧」が 34.2 %となっており、双方合わせると 77.0 %であり、図書館利用のかなりの割合を占めていることが分かります。これら以外では、③「雑誌・新聞の閲覧」が 7.3 %、④「休憩」が 4.9 %、⑤「文献複写」が 4.5 %などとなっています。

第7回調査（平成12年度）では②「図書の借り出し、閲覧」が 38.1 %で第1位でしたが、前回調査（平成14年度）で①「自習」が 41.7 %で第1位となり、今回もこの傾向が続いています。②「図書の借り出し、閲覧」については、38.1 %→32.2 %→34.2 %と変化しており、今後の推移を見る必要がありますが、インターネットによる情報収集の普及なども影響し、減少傾向にあるのではないかと考えられます。

学部別では、教育学部と医学部で「図書の借り出し、閲覧」比率がそれぞれ 49.6 %と 45.9 %と高いのに対して、法学部・経済学部では「自習」がそれぞれ 50.0 %と 49.7 %と高い比率を示しており、学部によって図書館の利用目的の違いが見られます。

〈図 68〉 問 27 図書館の主たる利用目的を、次のうちから一つ選んで答えてください。



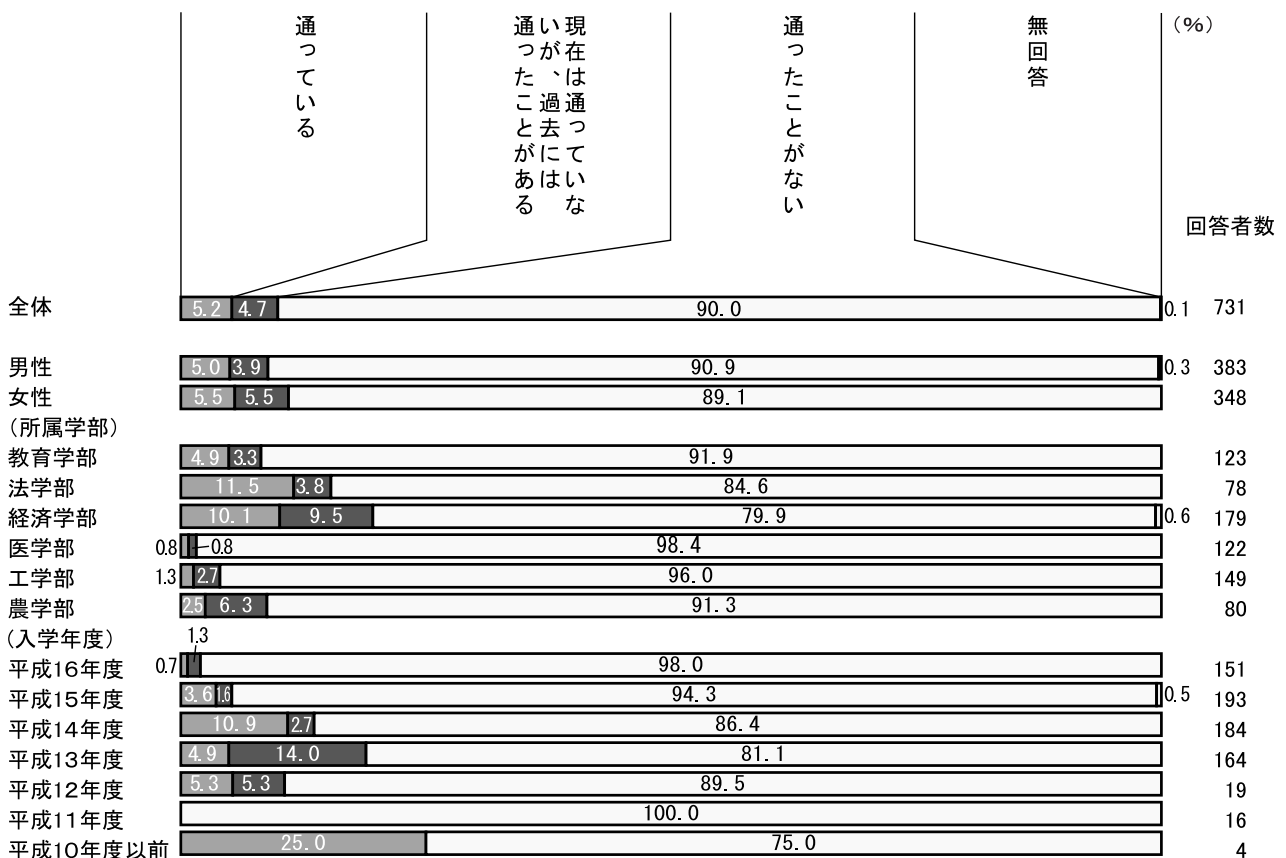
(10) 専門学校への通学

ダブルスクール経験者は9.9%で、やや増加。

図 69 は、大学の授業以外に、資格・機能などを習得するために専門学校などに通う学生に関する調査結果です。大学に在籍して専門的な勉強をしながら、さらに資格取得や技能の習得を目的として、専門学校などに通うことをさして「ダブルスクール」という言葉が使われています。今回の調査では、本学において、①「通っている」5.2%、②「過去に通ったことがある」4.7% 合わせて9.9%の学生が、ダブルスクールを経験したという結果が出ています。第6回調査では11.6%、第7回調査では9.6%、第8回調査では8.4%でした。

学部別では、経済学部（①②を合わせて19.6%）と法学部（15.3%）で特に高く、逆に医学部（1.6%）と工学部（4.0%）では低くなっています。男女での違いは認められません。

〈図 69〉 問 28 大学の授業以外に資格・技能などを修得するために専門学校などに（半年以上）通っていますか。



(11) 専門学校の内容

「公務員試験などの準備」を目的とする学生が 49.4 %

専門学校に通っているもしくは通ったことがある学生は、どのような内容の勉強をしていたのでしょうか。

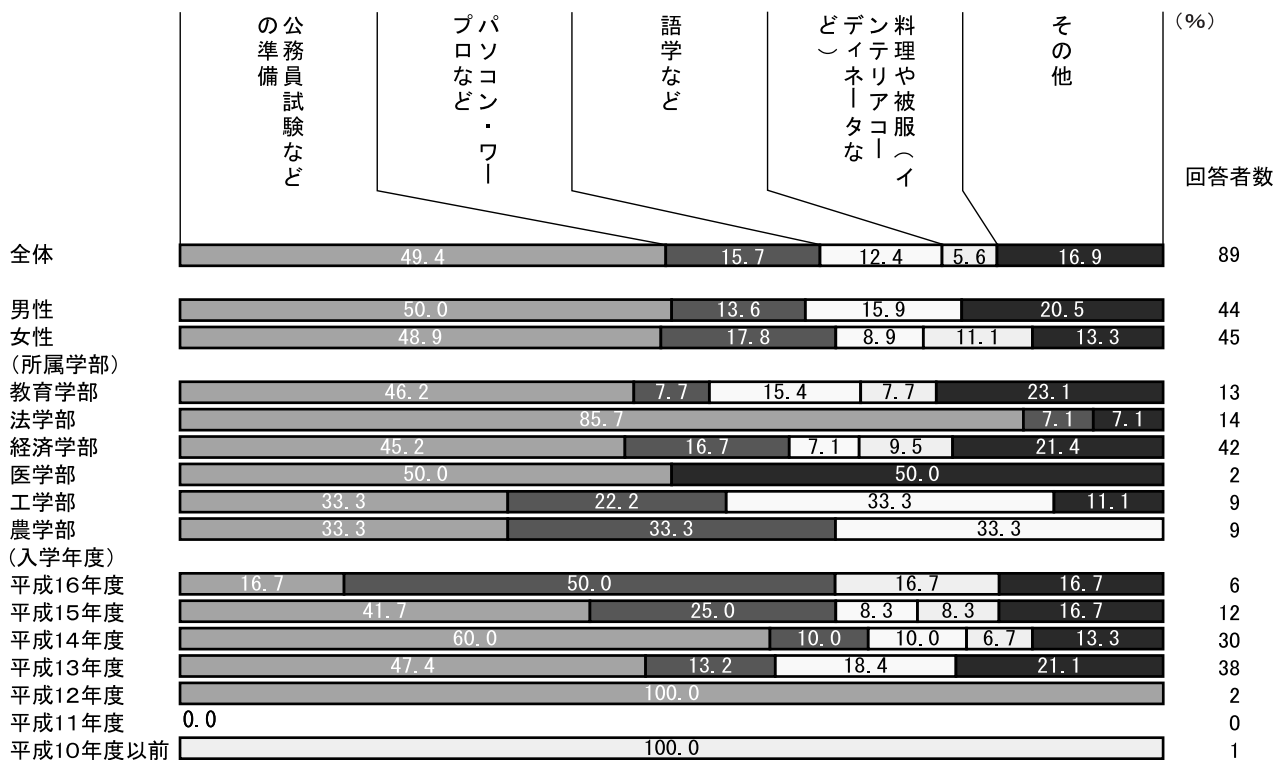
図 70 によれば、①「公務員試験などの準備」を目的とするものが最も多く 49.4 %、ついで②「パソコン・ワープロなど」が 15.7 %、③「語学など」が 12.4 %、④「料理・被服」が 5.6 %、⑤「その他」 16.9 %とという結果となっています。

従来の調査結果と比較すると、①「公務員試験など」の比率が、第 7 回調査で 31.1 %であったものが、前回調査では 45.3 %に大きく増加し、さらに今回も 49.4 %に増加しています。これは学生の公務員志望が依然強くまた公務員試験の競争が厳しくなっていることが反映しているのではないかと推測されます。しかし、逆に②「パソコン・ワープロ」の習得を目的とする学生は、第 7 回調査 23.0 %、前回調査 21.9 %、さらに今回は 15.7 %と明らかに減少傾向が見られます。

学部別では、やはり法学部において「公務員試験など」の比率が非常に高くなっています (85.7 %)。また工学部・農学部では「パソコン・ワープロ」の比率が高くなっています。このような違いは、学部による勉強内容や学生の就職指向の違いにも影響を受けていると思われます。

〈図 70〉 問 29 問 28 で「1」又は「2」と回答した人のみにおたずねします。

(1) それはどんな内容でしたか。次のうちから二つまで選んで答えてください。



(12) 専門学校への通学方法

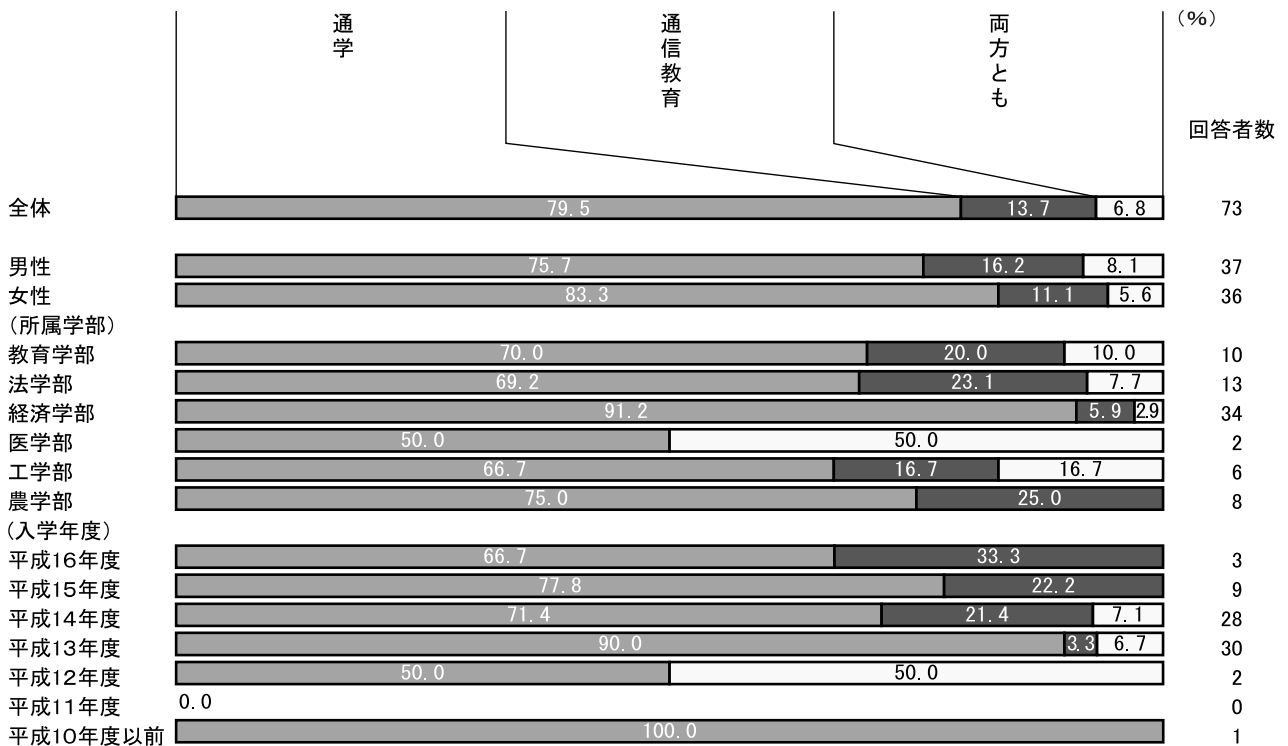
「通信教育」ではなく専門学校に「通学」する学生が圧倒的に多い。

この質問は、前回の第8回調査から設けられた項目です。専門学校に現在通っているか過去に通ったことのある学生に対して、通学方法を聞いたものです。

これによると、専門学校に実際に「通学」しているか過去に「通学した」ことのある学生が79.5%でほぼ8割となっています（前回調査では83.0%）。「通信教育」は13.7%にすぎません（前回調査では11.3%）。

男女比較では、「通学」の場合、男性が75.7%、女性が83.3%で、やや女性の方が比率は高いが大きな差ではありません。

〈図 71〉 (2) それは通学ですか。それとも、通信教育ですか。



### 3. 課外活動

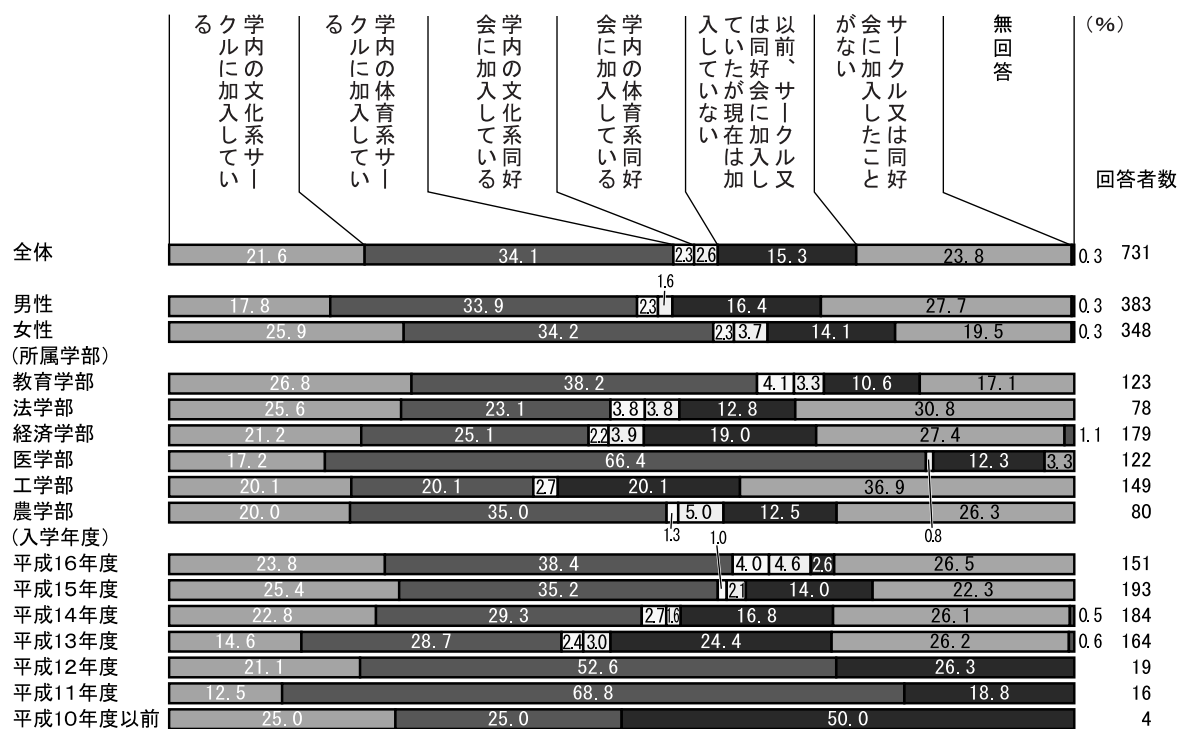
#### (1) サークルへの加入

サークル加入の割合は2年前の調査よりは、やや増加  
3割以上の学生が学内の体育系サークルに加入

体育系サークルへはどの学部 of 学生も20%以上が加入しており、特に、医学部では3分の2(66.4%)の学生が加入しています。また、サークルや同好会に加入したことがない学生は極めて少なく(3.3%)なっています。それに比べて工学部(36.9%)、法学部(30.8%)、経済学部(27.4%)、農学部(26.3%)では30%前後の学生がサークルや同好会に加入したことがなく、医学部や教育学部(17.1%)では学生の多くがサークルや同好会に加入していることと対照的です。また、加入したことがない学生が男性では3割近く(27.7%)にのぼるのに対して、女性では2割以下(19.5%)にとどまることも特徴的です。

医学部や教育学部以外の学部で加入したことがない学生が多い原因としては、医学部ではキャンパス内に独自のサークルが存在する、教育学部ではサークル以外にも学生の自治的活動が盛んであることなどを考えると、工学部や農学部ではキャンパスが多く、サークルが主として活動する幸町キャンパスから離れている、これら理系学部では実験等でサークル活動の時間がとれない、さらに、経済学部、法学部も含めて学生の自治的活動が活発でないことにより学生のキャンパスライフへの参加意識に少なくない影響があること、などが考えられるかもしれません。

〈図 72〉 問 30 あなたはサークル又は同好会に加入していますか。(複数のサークル又は同好会に加入している人は、主として活動しているものについて回答のこと。)



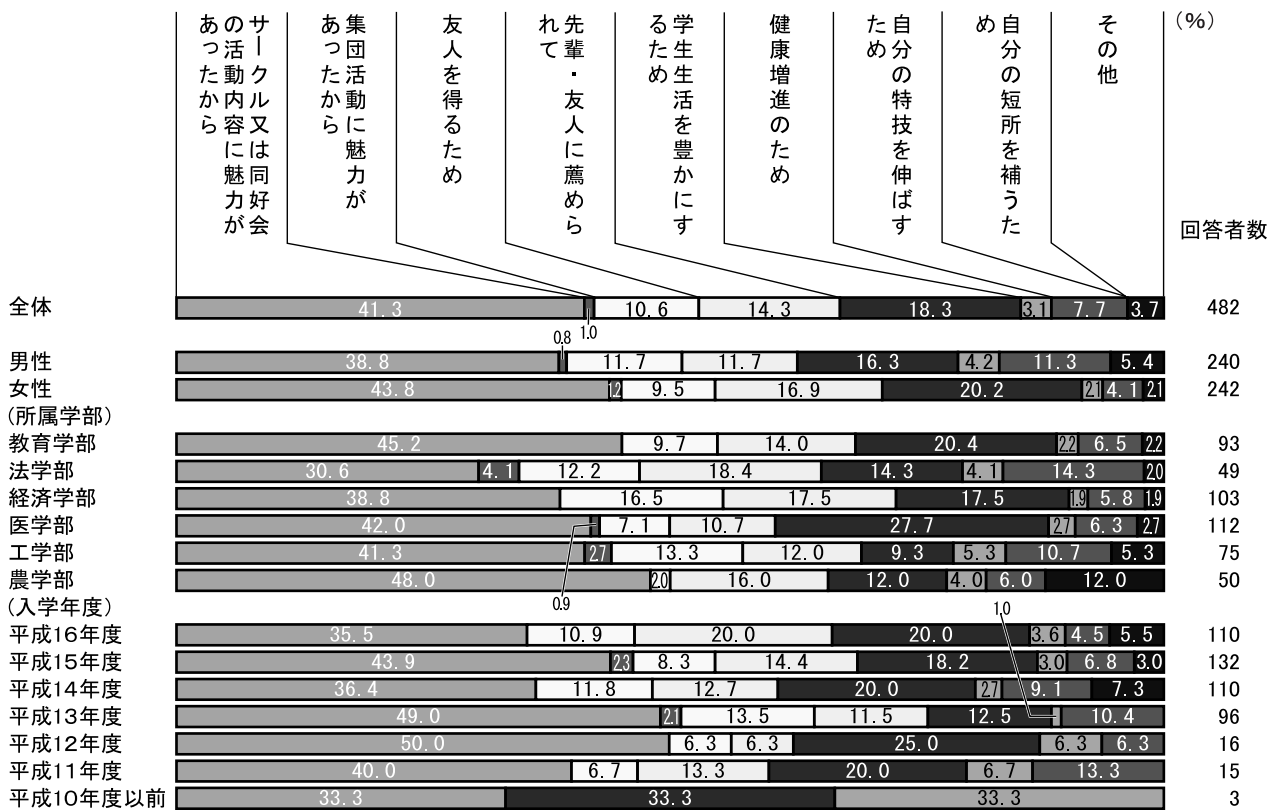
(2) サークル加入の動機

4割以上の学生がサークルの活動内容に魅力を感じて加入  
友人を得るために加入する学生は年々減少している

体育系サークルへの加入が多い割には「集団活動に魅力」(1.0%)、「健康増進」(3.1%)といった動機はほとんど見られず、「サークルの活動内容に魅力」という動機が4割(41.3%)を超えています。これは体育系サークルへの加入の動機が何かの競技に参加したいというより、身体を動かして楽しむ傾向が強いように思われます。

加入の動機が各学部でそれほど大きな違いが見られない中で、医学部では「学生生活を豊かにするため」という動機(27.7%)が他学部(9.3~20.4%)の3倍から1.5倍に上ることが特徴的です。

〈図 73〉 問 31 あなたがサークル又は同好会に加入した動機は何ですか。次のうちから一つ選んで答えてください。(現在加入している人のみ回答のこと。)





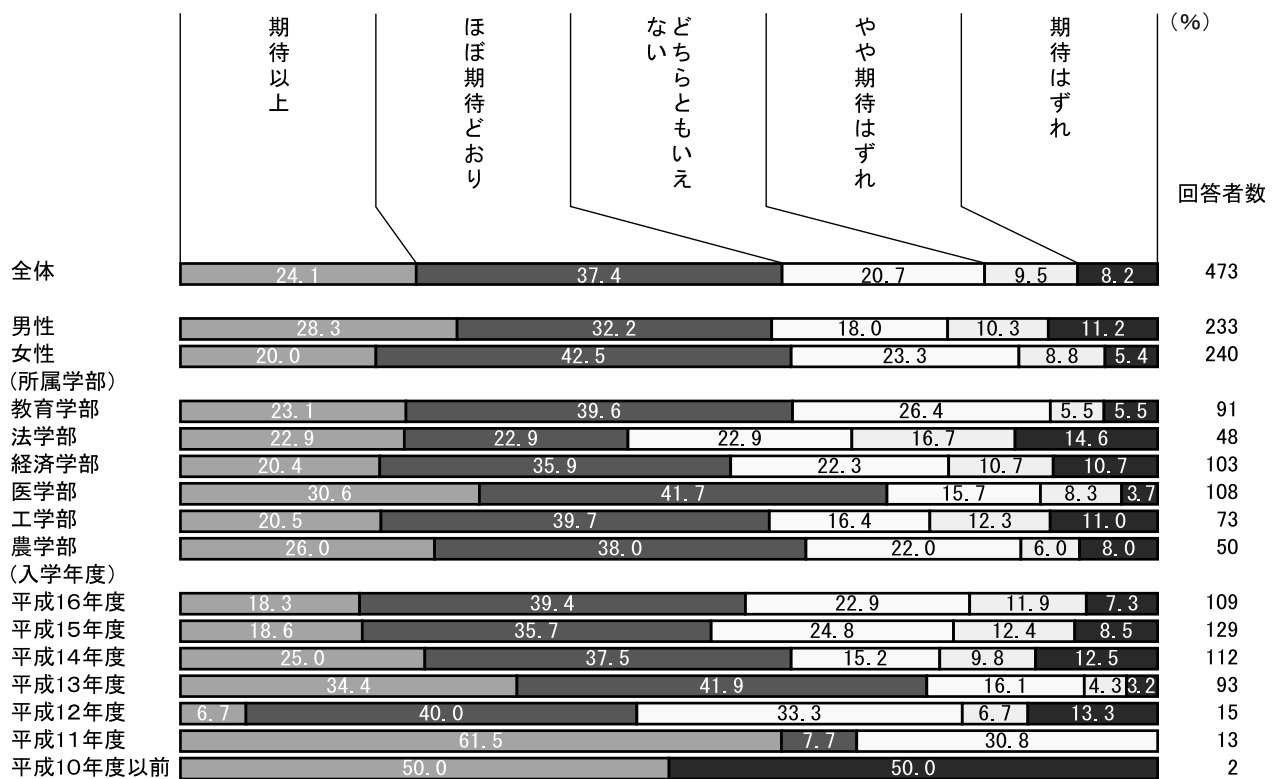
(3) サークルの感想

各サークルの活動内容は6割以上の学生の期待に応えるものになっている

各学部とも過半数以上の学生がサークルの活動内容を期待に応えるものとしている中で、医学部では7割以上（72.3%）が期待に応えるとしているのに対して、法学部では期待に応えるとした学生は半数以下（45.8%）にとどまっているのが対照的です。

〈図 74〉 問 32 サークル又は同好会に参加してどのような感想を持っていますか。

（現在加入している人のみ回答のこと。）

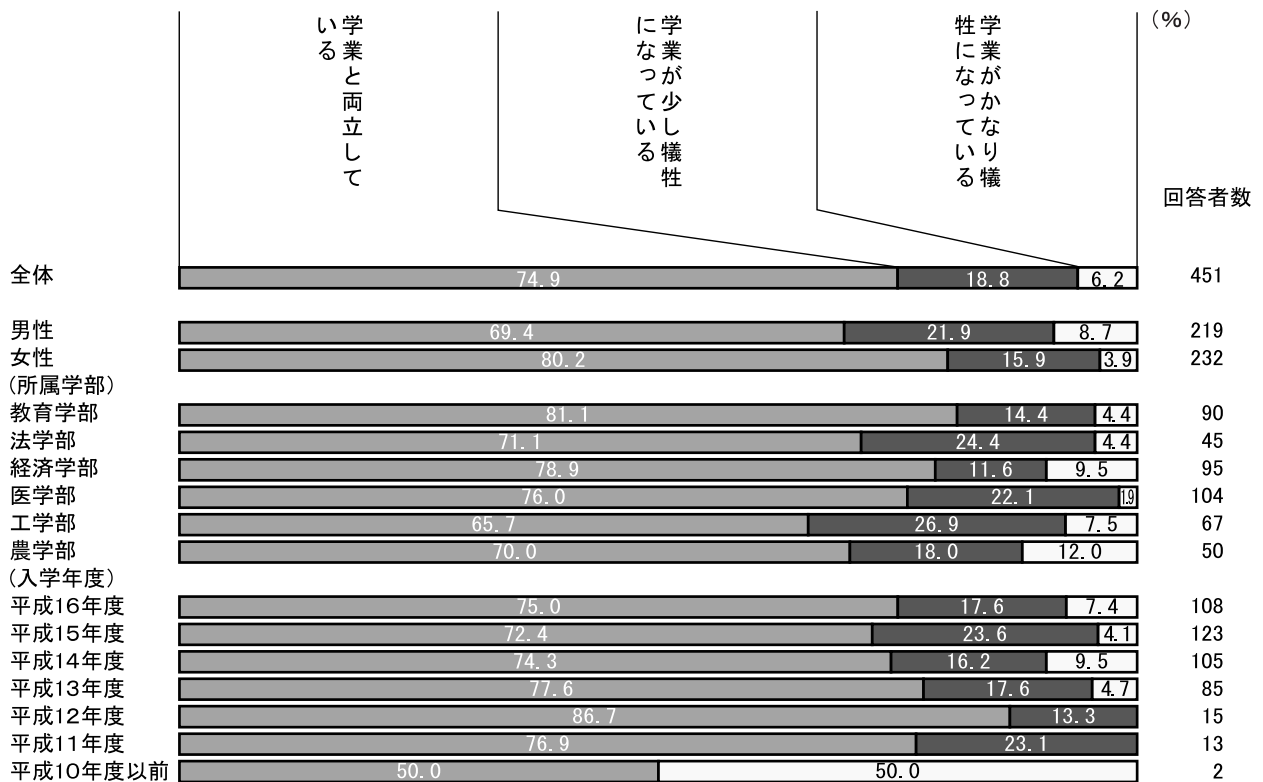


(4) 学業との両立

ほぼ4分の3の学生が学業とサークル活動を両立  
「学業がかなり犠牲になっている」と答えた学生は年々減少している

多くの学部で7割以上の学生が学業とサークル活動を両立させている中で、工学部のみが、少し、またはかなり学業を犠牲にしているとする回答の割合が3分の1を越えている(34.4%)点が目立っています。

〈図 75〉 問 33 あなたはサークル又は同好会活動と学業を両立していますか。  
(現在加入している人のみ回答のこと。)

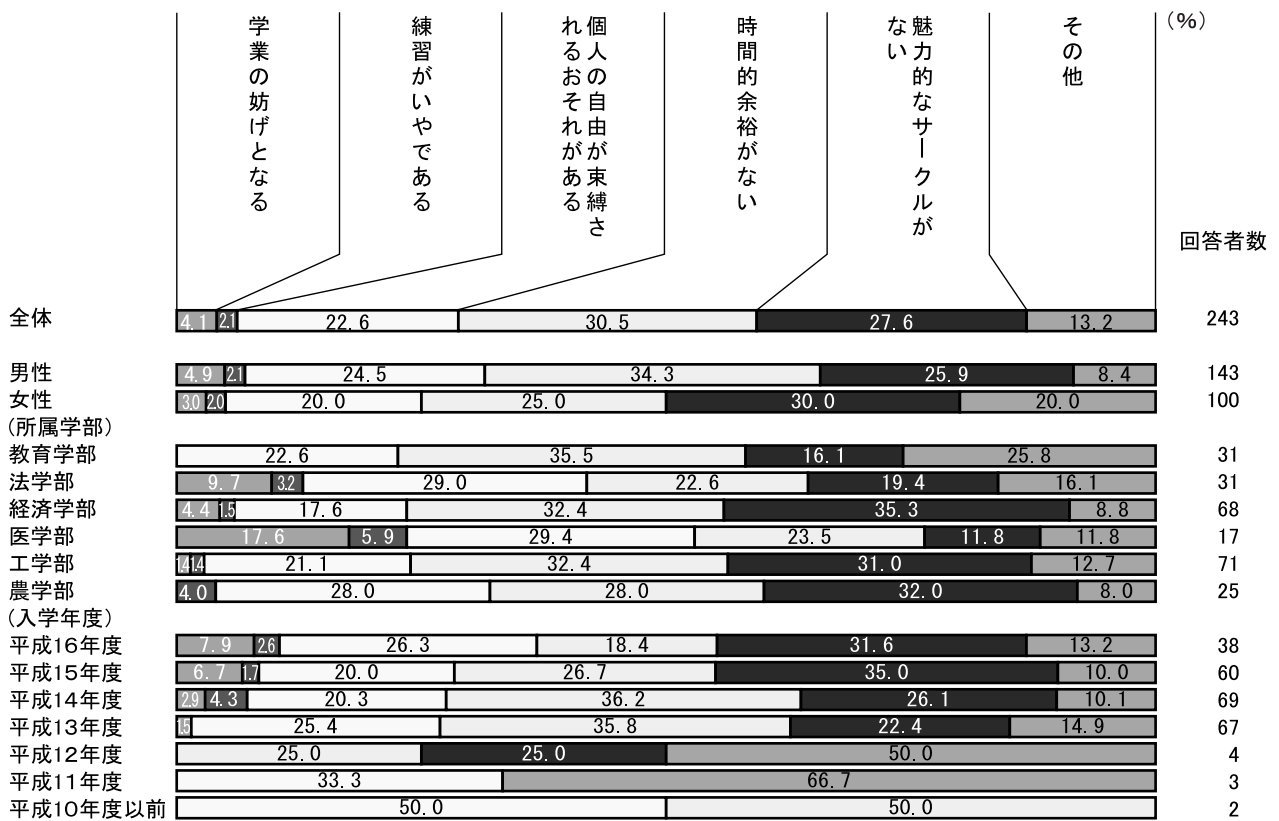


(5) サークルに加入しない理由

「時間的余裕がない」、「魅力的なサークルがない」、「個人の自由が束縛される」  
 が大きな理由である傾向は変わっていない

「時間的余裕がない」、「魅力的なサークルがない」、「個人の自由が束縛される」が大きな理由である傾向は変わっていない中で、「時間的余裕がない」という理由は学年が進行するに連れて増加する傾向にあり、反対に「魅力的なサークルがない」という理由は学年が進行するに連れて減少する傾向にあります。

〈図 76〉 問 34 あなたがサークル又は同好会に加入していない理由は何ですか。次のうちから一つ選んで答えてください。(現在加入していない人のみ回答のこと。)

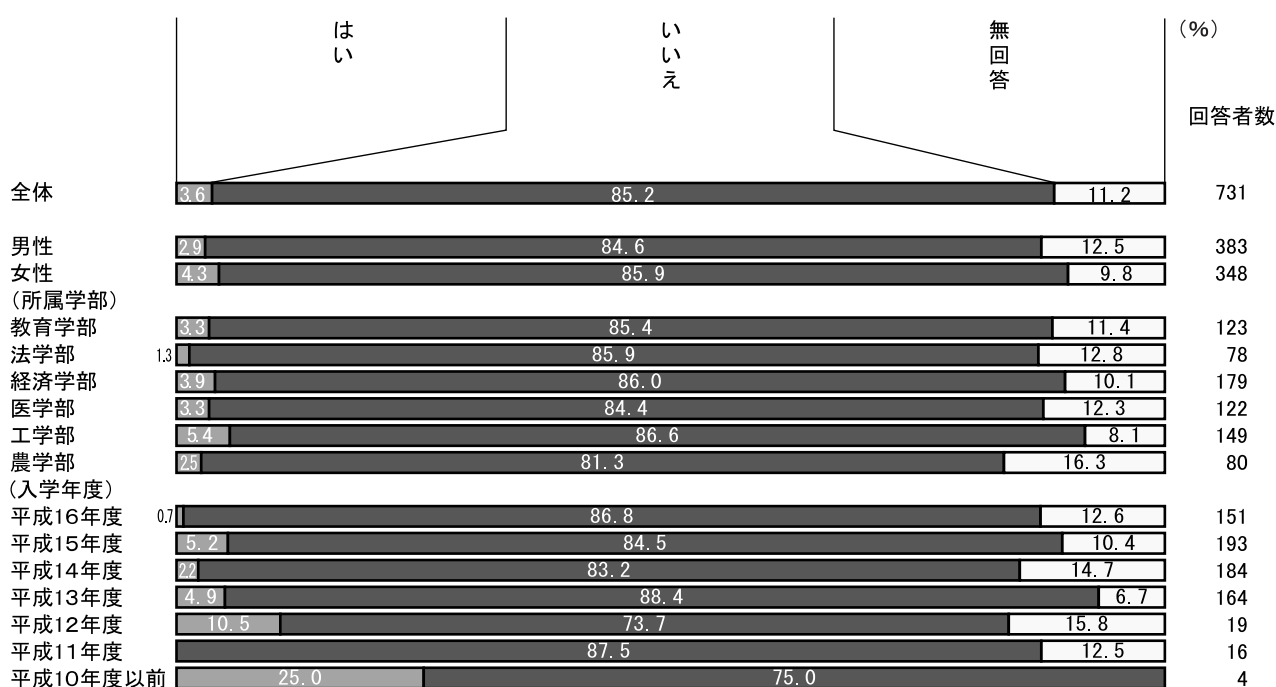


(6) 学外のサークルへの加入

学外のサークルへの加入は全体の3%強

学外のサークルへの加入はどの学部でもほとんどない中で、工学部のみが5%（5.4%、8名）を越えています。元となる全体の数が少ない（26名）ので何らかの傾向があるかどうかははっきりしません。

〈図 77〉 問 35 あなたは学外のサークル又は同好会に加入していますか。

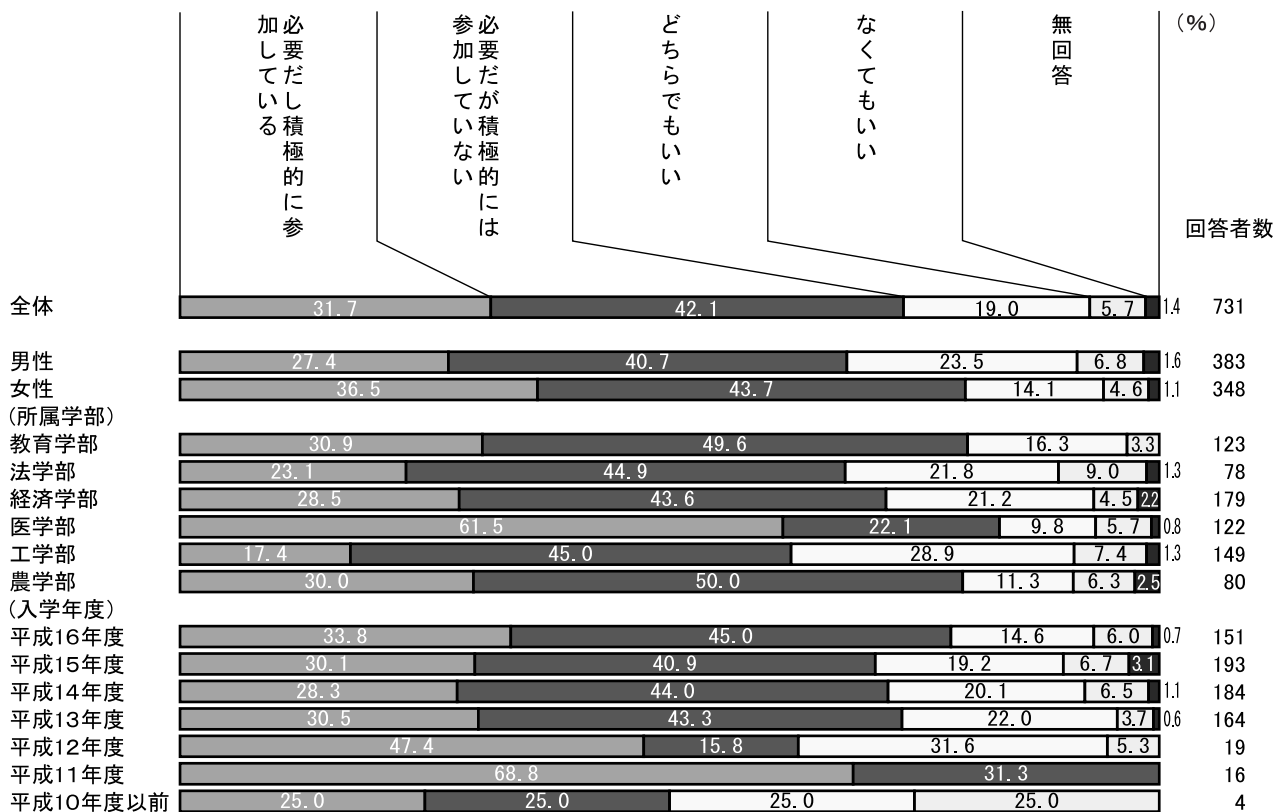


(7) 新入生歓迎行事、大学祭等の学生行事

全体の7割以上の学生が必要だと考えている  
積極的に参加する学生は増加して3割以上になった

積極的に参加している学生が医学部では6割を超えている（61.5%）のに対して、工学部では2割に満たない（17.4%）という大きな落差が見られました。工学部の歴史が浅く、学生の中に新入生を積極的に歓迎しようという意識が希薄なのかもしれません。また、工学部キャンパスでの行事（オープンキャンパス）が大学祭と重なったため、結果的に大学祭に積極的に参加する機会を奪ったことになったののかもしれません。

〈図 78〉 問 37 新入生歓迎行事や大学祭など学生行事についてどのように考えていますか。



## 4. 就職

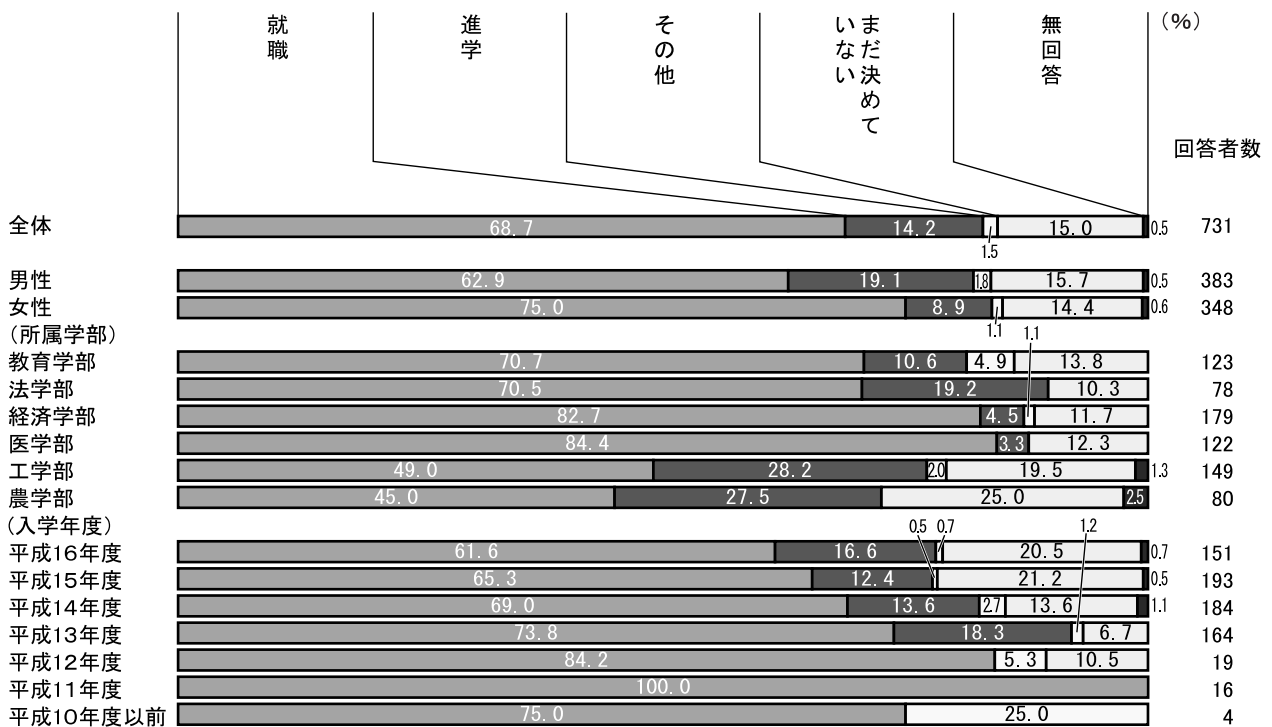
### (1) 卒業後の進路

就職を希望する学生は全体で7割前後で推移している  
進学希望の学生が14%程度で頭打ちになっている

就職を希望する学生は全体で7割程度（68.7%）あり、例年（2000年は69.3%、2002年は70.2%）と大きな変化はなく、進学を希望する学生も工学部（28.2%）、農学部（27.5%）では3割近くと他学部比べて多い傾向や、女性が少なく（8.9%）、男性が多い（19.1%）傾向も例年とあまり変わりません。

しかし、法学部では進学希望者の割合が前回（9.1%）の2倍以上（19.2%）になり、法科大学院ができた影響が大きいと考えられます。

〈図 79〉 問 38 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。

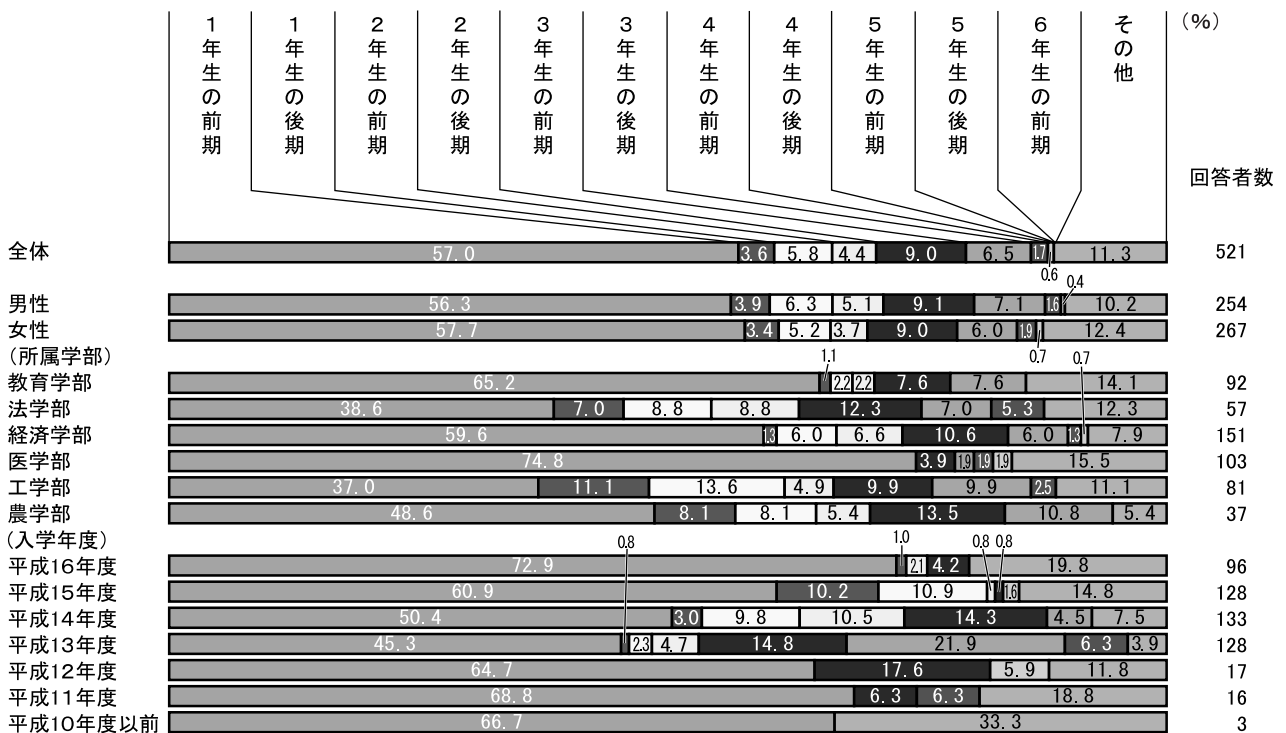


(2) 就職を考えはじめた時期

6割以上の学生が1年生の時から就職を考え始めている

入学直後の1年生前期から就職を考え始めている学生が6割近く(57.0%)と非常に多いが、法学部(38.6%)、工学部(37.0%)では3分の1程度と低く、逆に医学部では4分の3(74.8%)とかなり大きな差が見られます。この差は、進学の際に、医学部の学生は将来の職業を強く意識して学部を選んでいるのに対して、法学部、工学部の学生は将来の職業などを十分に考えずに学部を選択していることによって生じているのではないかと思います。しかし、どの学部をとっていても3年後期までに、ほとんどの学生が就職についての考えをまとめているようです。

〈図80〉 問39 就職しようと考え始めたのはいつ頃ですか。



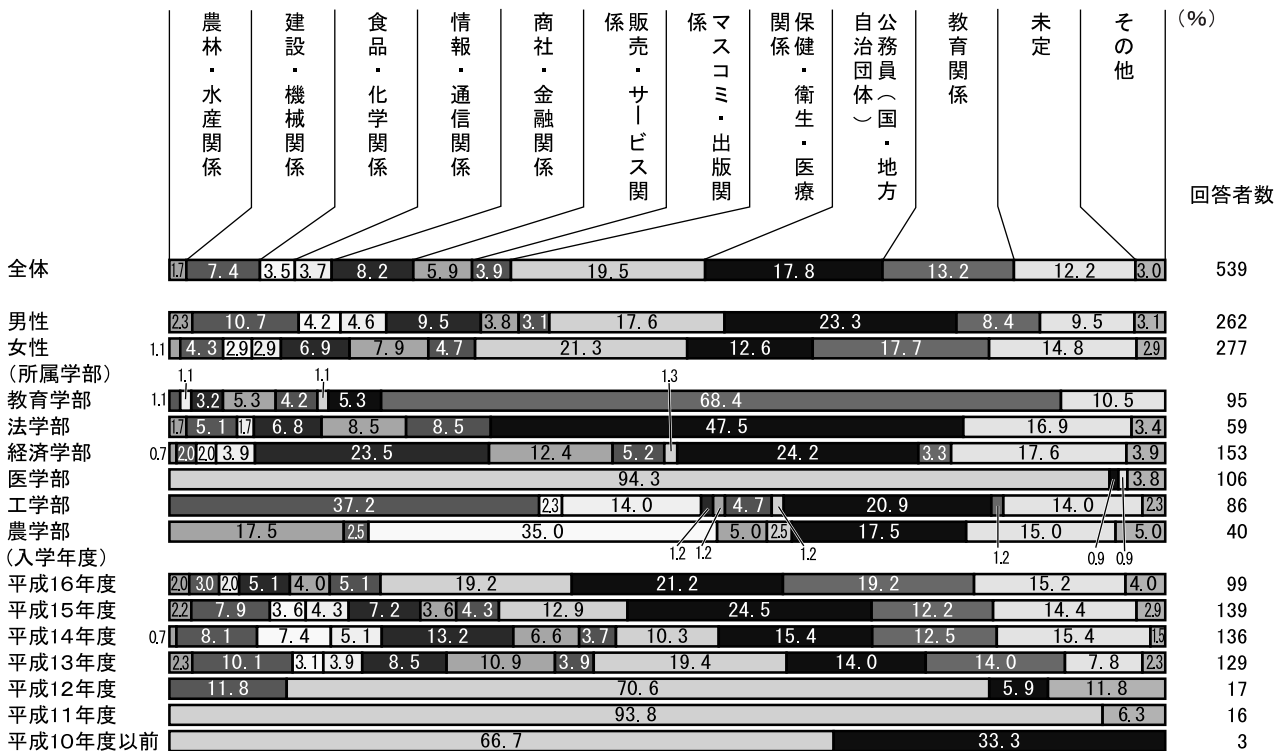
(3) 希望する分野

例年に比べると公務員志望者の割合が半分近くに落ちている  
 今回より新たに項目として加わった保健・衛生・医療関係は全体の  
 2割近くが希望  
 各学部の専門分野に希望者が集まっている

選択項目が例年と変わっているため厳密な比較は難しいのですが、例年（2000年は31.1%、2002年は30.6%）と比べると公務員志望者の割合が半分近く（17.8%）と大幅に落ちています。この傾向は、各学部での割合を2年前と比べてみると教育学部（20.5%→5.3%）、法学部（61.9%→47.5%）、経済学部（36.2%→24.2%）で大きく減少しており、工学部（14.5%→20.9%）ではやや増えましたが、農学部（16.4%→17.5%）では微増にとどまっており、構造改革による公務員の採用減が大きく影響しています。

しかし、新たに加わった保健・衛生・医療関係は全体の2割近く（19.5%）、特に、医学部の94.3%の希望があります。また、教育関係には教育学部の68.4%、公務員には法学部の47.5%、経済学部の24.2%、商社・金融関係には経済学部の23.5%、建設・機械関係には工学部の37.2%、食品・化学関係には農学部の35.0%の学生が希望するなど各学部の専門分野が就職先の希望に大きく関連しています。

〈図 81〉 問 40 希望する分野は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。





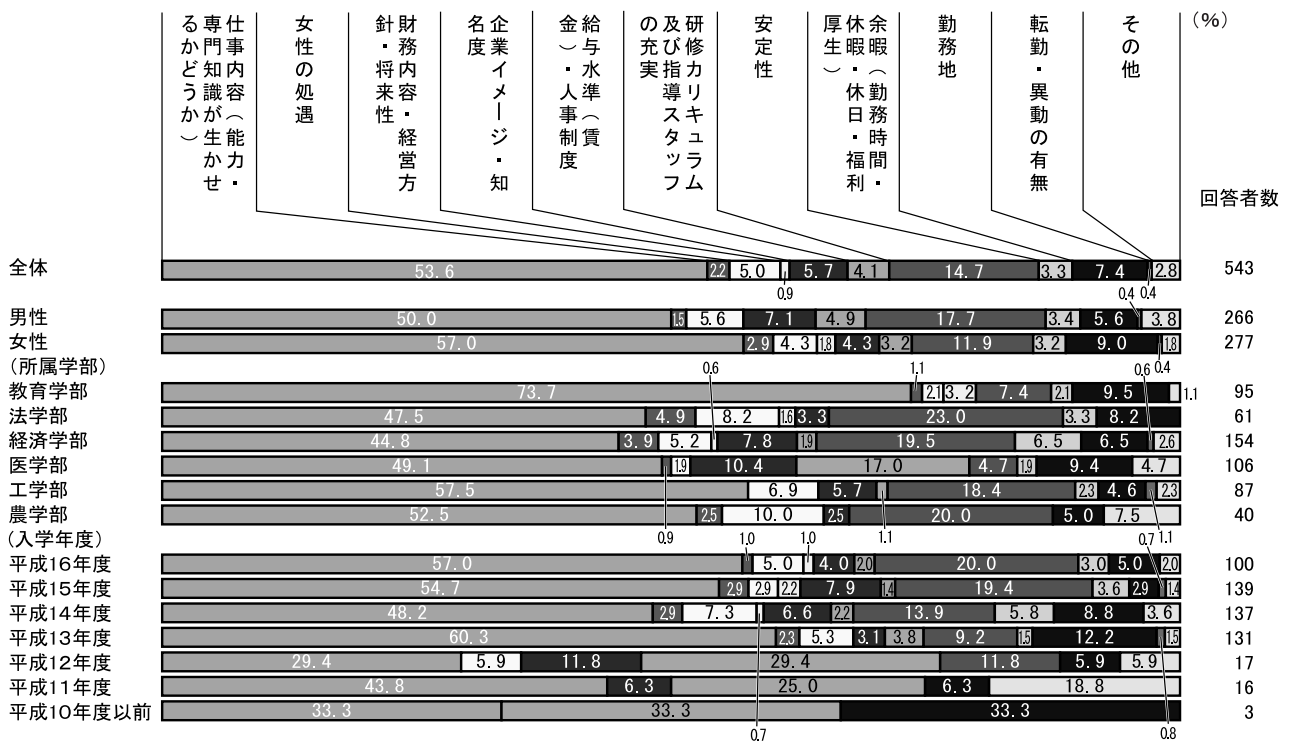
(4) 就職決定で重視すること

全体の半数以上の学生が「仕事内容」によって職業を選択している

就職決定で重視することに「仕事内容」を上げる学生は全体の半数以上（53.6%）で学部間の差も例年と大きく違いはありません。その他の項目も例年と同様の傾向です。

その中で、今年度より加わった「研修カリキュラム及び指導スタッフの充実」を上げる学生は医学部で多く（17.0%）、他の学部ではほとんど重視する項目としてあげられていません。

〈図 82〉 問 41 職業を決めるに当たって重視することはなんですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

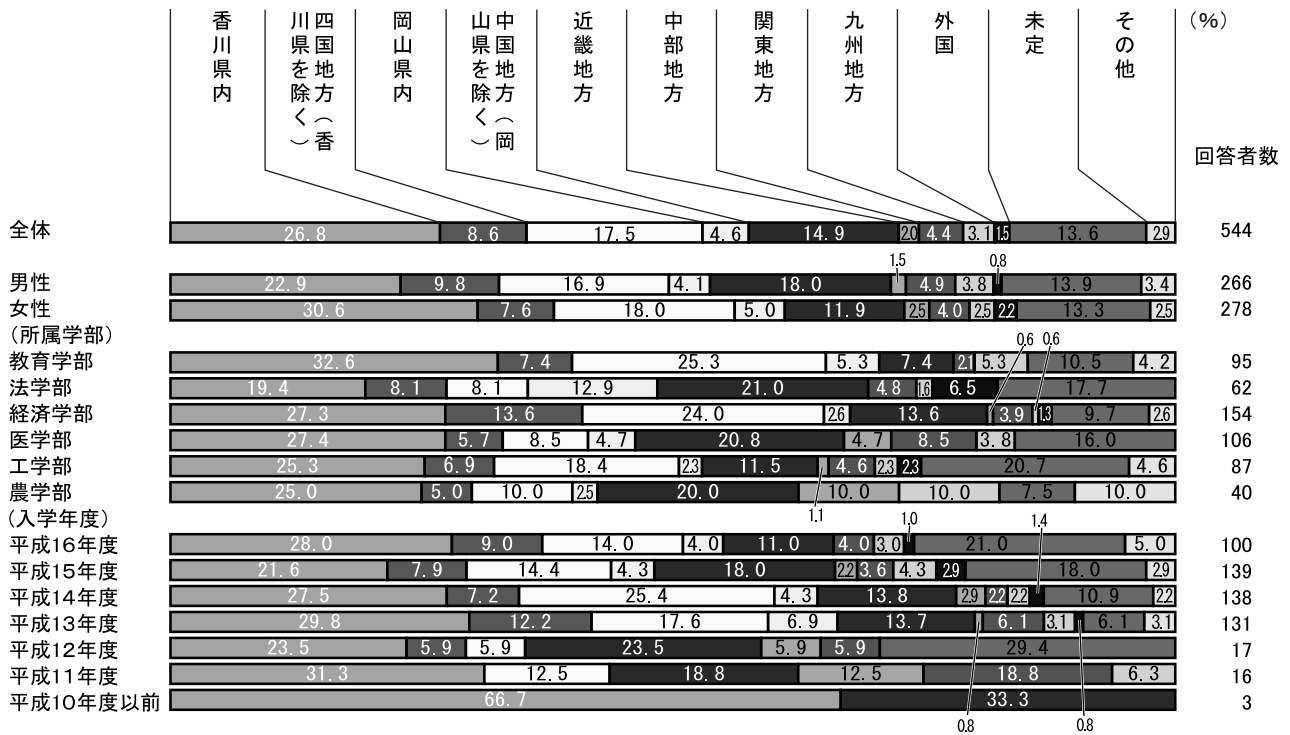


(5) 希望地域

香川県内への就職希望は年々増加している  
その他の地域への就職希望は年々減少している

香川県内への就職希望は年々増加しており、今年度は4分の1を越え（26.8%）ました。それに対して香川県以外の四国地方や岡山県内を希望する学生も前回より減少しています。中四国・近畿地方の関西圏を除く地域を希望する学生は全体では1割強（13.9%）で例年と大きくは変わっていません。この中で農学部は関西圏以外への就職希望が3割を占めています。

〈図 83〉 問 42 どの地域を希望しますか。次のうちから一つ選んで教えてください。



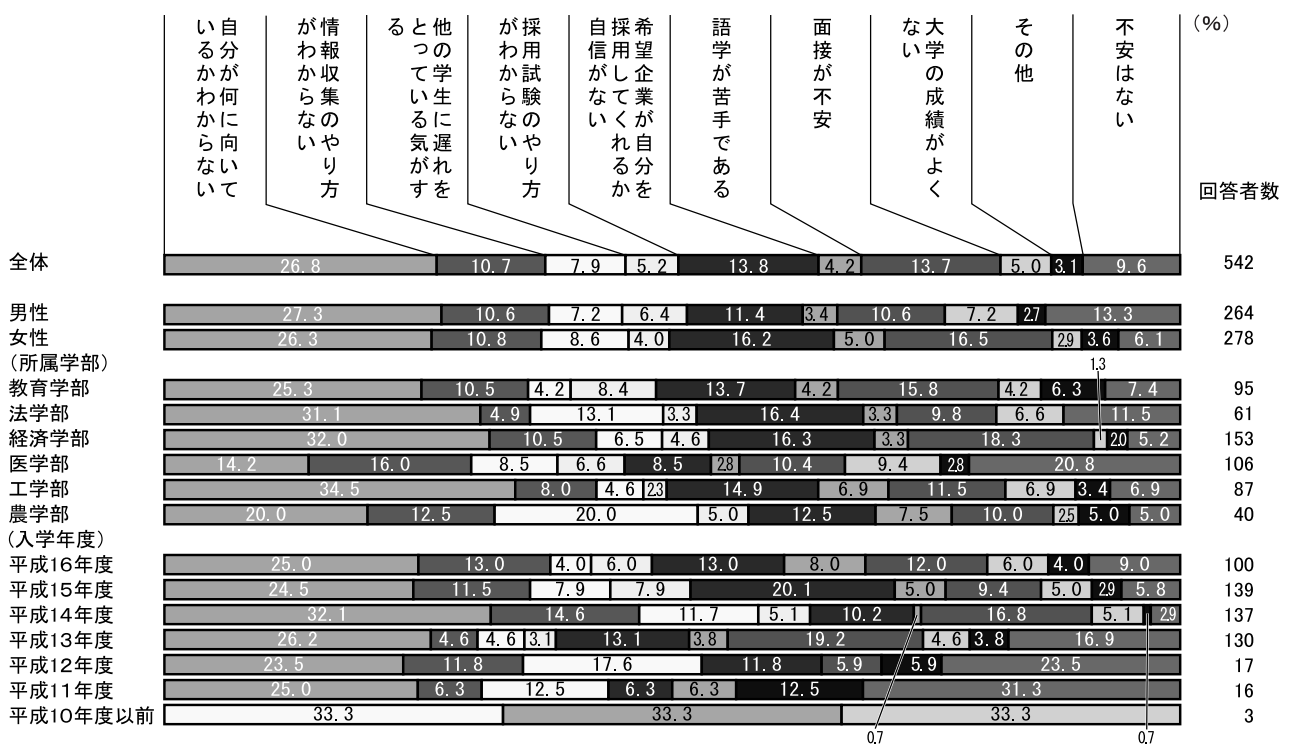
(6) 就職活動で不安に思っていること

自分が何に向いているかわからない学生が4分の1以上いる  
 特に、法学部、経済学部、工学部では3割(31%)から3分の1以上(34%)にのぼる

就職活動で不安に思っていることは前回とほぼ同様の結果です。特に大きな違いはありませんが、医学部で不安はないとの回答が2割以上(20.8%)を占め、他学部(ほとんどの学部で10%以下)と大きな違いを見せました。

また、「自分が何に向いているかわからない」との回答が法学部(31.1%)、経済学部(32.0%)、工学部(34.5%)で3割を超えましたが、農学部では前回より大きく減少(32.7%→20.0%)しました。

〈図84〉 問43 就職活動に関して、不安に思っていることは何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(7) 就職を相談した相手

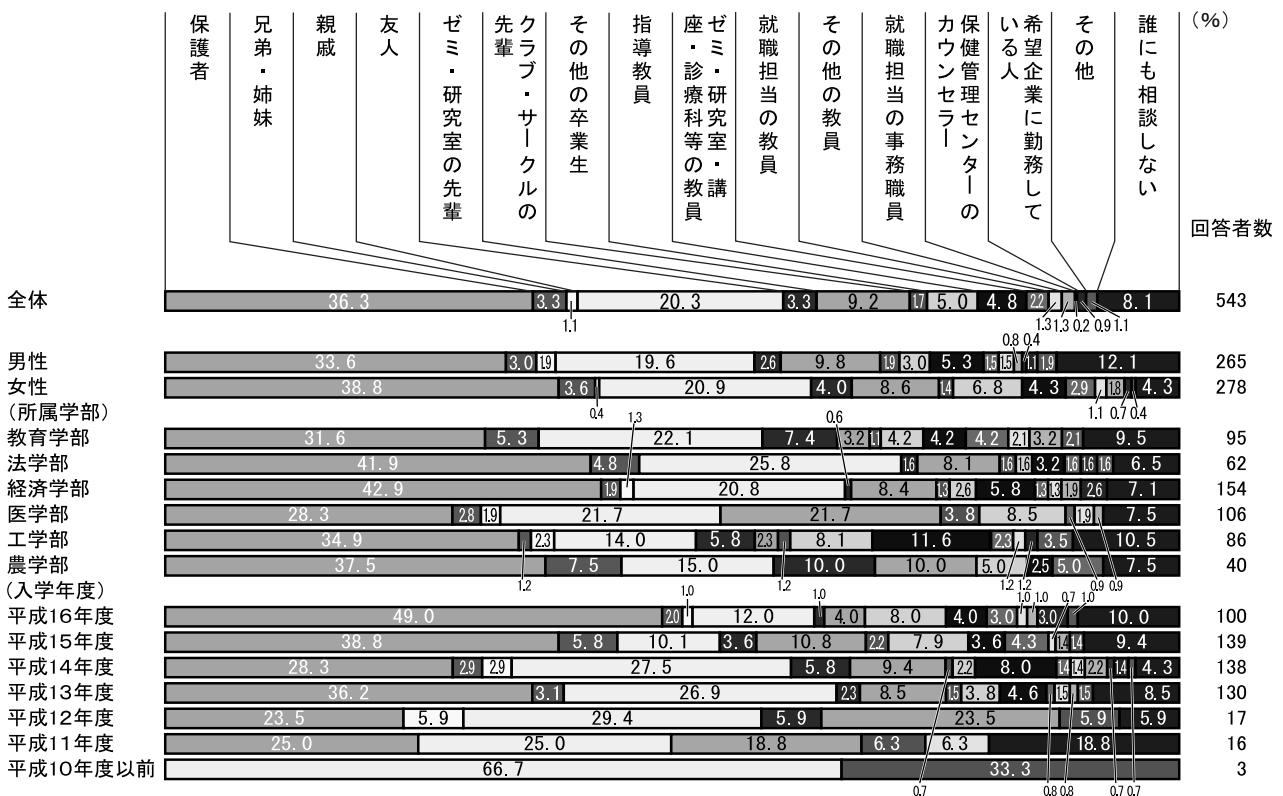
相談相手は保護者・兄弟・親戚が4割、友人・先輩が3割強、教職員が1.5割弱

相談相手は保護者・兄弟・親戚が4割（40.7%）、友人・先輩が3割強（34.5%）、教職員が1.5割弱（14.8%）で就職相談を各学部、全学でも力を入れている割には学生にとってはあまり相談相手とみなされておらず、就職相談に関する大学としての関与が不十分なのではないかと思われます。

このような中で工学部では教職員が相談相手の2割以上（23.2%）を占め、他学部より就職に関する教職員の関与が多いように思われます。

医学部で相談相手にクラブ・サークルの先輩をあげる学生が2割以上（21.7%）あり、就職に関する先輩後輩の関係が強いことを伺わせ、他の学部と大きな違いを見せました。

〈図 85〉 問 44 就職について誰に相談しましたか。また誰に相談するつもりですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(8) 就職についての大学への要望

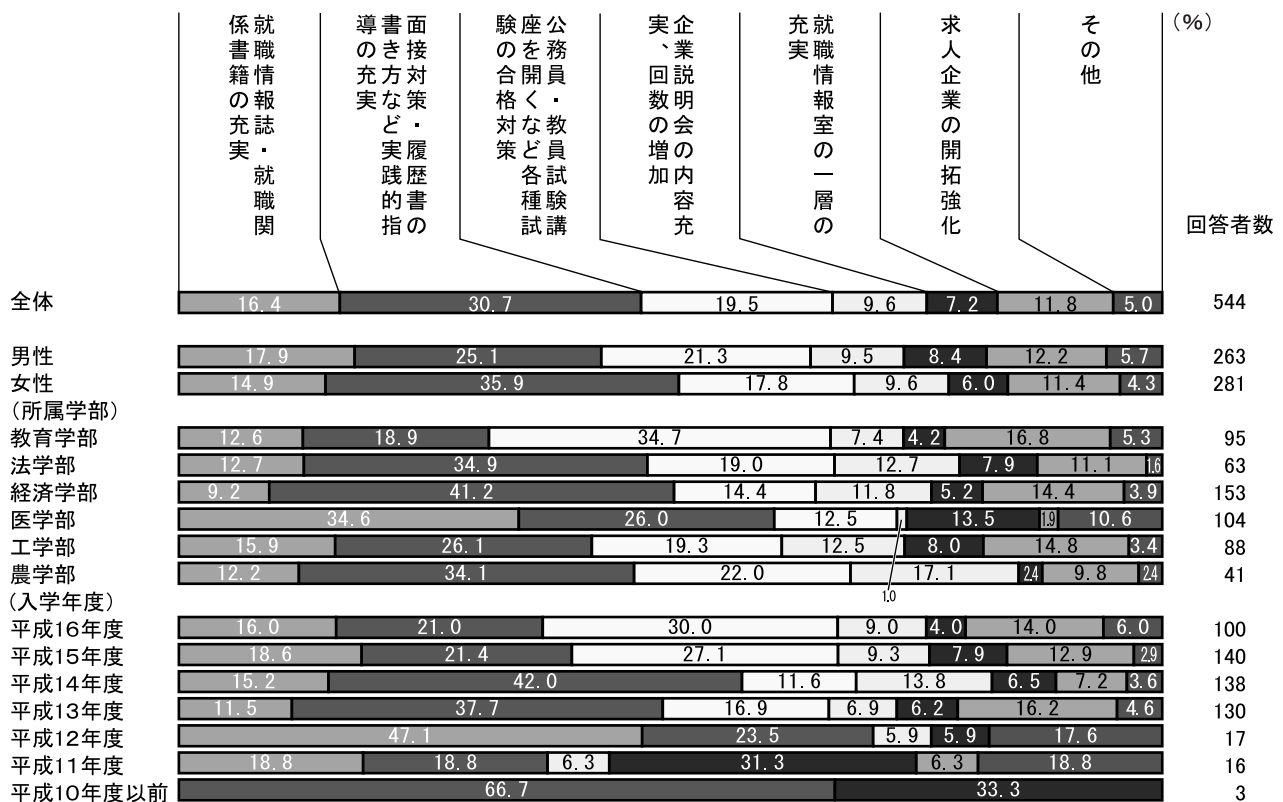
面接対策、試験対策などについての要望が多い

例年のように面接対策、試験対策などについての要望が多くありました。大きな傾向は全体も各学部も変わりません。

しかし、教育学部では「公務員・教員試験への対策」が前回より大幅に減少し（56.1%→34.7%）、「求人企業の開拓強化」が大幅に増加した（4.9%→16.8%）、農学部では「公務員・教員試験への対策」が前回より大幅に増加し（7.3%→22.0%）、「求人企業の開拓強化」が大幅に減少した（27.3%→9.8%）ことが対照的な違いとしてみられます。

また、他の学部では10%前後の「就職情報誌・就職関係書類の充実」が医学部では3分の1以上（34.6%）が要望している点が目立ちます。

〈図 86〉 問 45 就職に関する大学への要望について、次のうちから一つ選んで答えてください。

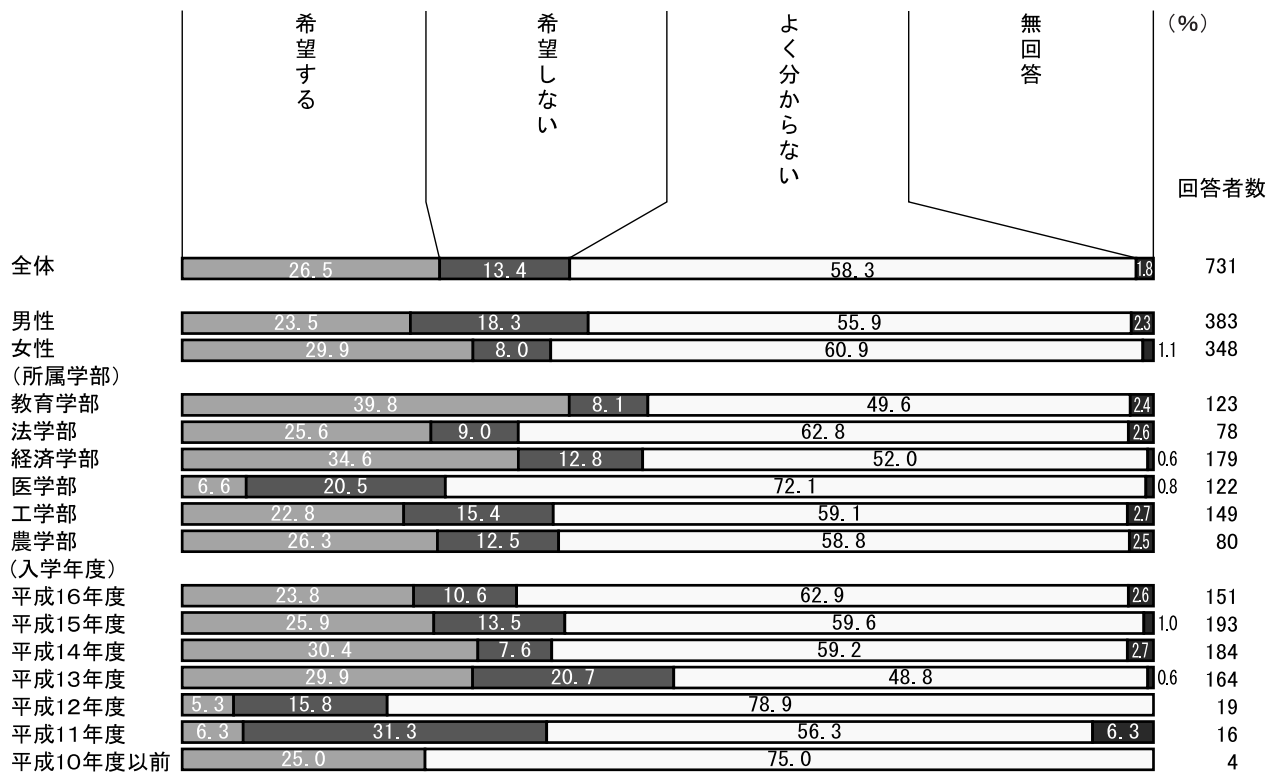


(9) キャリア教育開設の希望

全体の4分の1程度しか希望していない  
 全体の6割近くがよく分からないと回答

今回新たに設けられた項目ですが、教育学部では39.8%、経済学部では34.6%が希望しているが、医学部では10%以下しか希望していません。また、よく分からないという回答がどの学部でも過半数以上を占めています。しかし、希望しないとの回答は20%を越える医学部を除けばどの学部でも10%前後にとどまっています。

〈図87〉 問46 就職・職業に関する授業科目（キャリア教育）について、あなたは開設することを希望しますか。



(10) キャリア教育に希望する内容

公務員試験、教員試験、資格、面接に関する対策を希望している  
本来の職業選択に関する教育は希望していない

回答したほとんどの学生がキャリア教育を公務員や教員採用試験、各種の資格試験、面接の対策と位置づけており、本来のキャリア教育の目的である自分に最適な職業を見つけるうえでのガイダンス的な教育を望んでいる学生は少ない。また、ばくぜんと就職対策と書いている学生も多い。

具体的な対策講座を望んだ学生は進路がある程度決まっている学生のようにです。また、進路が決まっていない（わからない）学生は何を書いているかわからず一般的な就職対策と書いているのではないのでしょうか。

このあたりのギャップをどう埋めていくかが、今後のキャリア教育の課題であると思われます。

問 47 問 46 で「1」と答えた人におたずねします。それはどのようなタイトル又は内容の科目ですか。簡単に記入願います。

(主な内容)

- ・ 教員採用試験の対策
- ・ 公務員試験への対策
- ・ 就職対策講座
- ・ 面接対策
- ・ 1, 2年の早い段階で、職種・業界を分かりやすく説明できる講座があれば良いと思う。
- ・ ビジネス・マナーや自分に合った職の選び方などの内容
- ・ 自分がどのような性格で、どのような仕事内容が向いているか、という事が把握できるような内容